
平成24年度
県民アンケート調査
報告書（概要版）

平成24年11月

奈良県

— 目 次 —

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的	1
2 調査項目	1
3 調査方法	1
4 調査票の配付・回収の状況	1

第2章 調査結果の概要

1 県民の生活全般について	
1-1 現在の暮らし向きの実感	3
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
1-3 1年前と比較して暮らし向きが苦しくなった理由	5
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	6
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	7
1-6 奈良県の住みやすさの評価	8
1-7 将来の奈良県での定住意向	9
1-8 将来的に奈良県に定住したくない理由	10
2 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について	
2-1 県民の身近な生活に関する項目の重要度と満足度の関係	11
2-2 地域別の重要度・満足度の比較	13
2-3 ライフステージ別の重要度・満足度の比較	16
3 県民の生活に関する意識やニーズについて	
3-1 買い物やサービスの利用について	19
3-2 奈良県の農畜産物・林産物の振興について	21
3-3 観光の振興について	22
3-4 健康づくりの振興について	23
3-5 子育て支援の充実と児童虐待の防止について	25
3-6 上質な文化芸術に触れる機会の創出について	27
3-7 県政情報の入手方法について	28

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的

県民にとって身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「買い物やサービスの利用」、「農畜産物・林産物の振興」や「観光振興」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「買い物やサービスの利用」、「農畜産物・林産物の振興」や「観光振興」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3 調査方法

- ◇調査地域：奈良県全域
◇調査対象：県内在住の満20歳以上の男女・個人
◇調査標本数：5,000人
◇標本抽出法：層化二段無作為抽出法
◇調査方法：郵送配付・郵送回収
◇調査時期：平成24年5月22日～6月11日

4 調査票の配付・回収の状況

調査票配付件数 5,000件 → 有効回答数(率) 2,685件 (53.7%)

◆地域の区分と対応する市町村及び地域別の実有効回答数

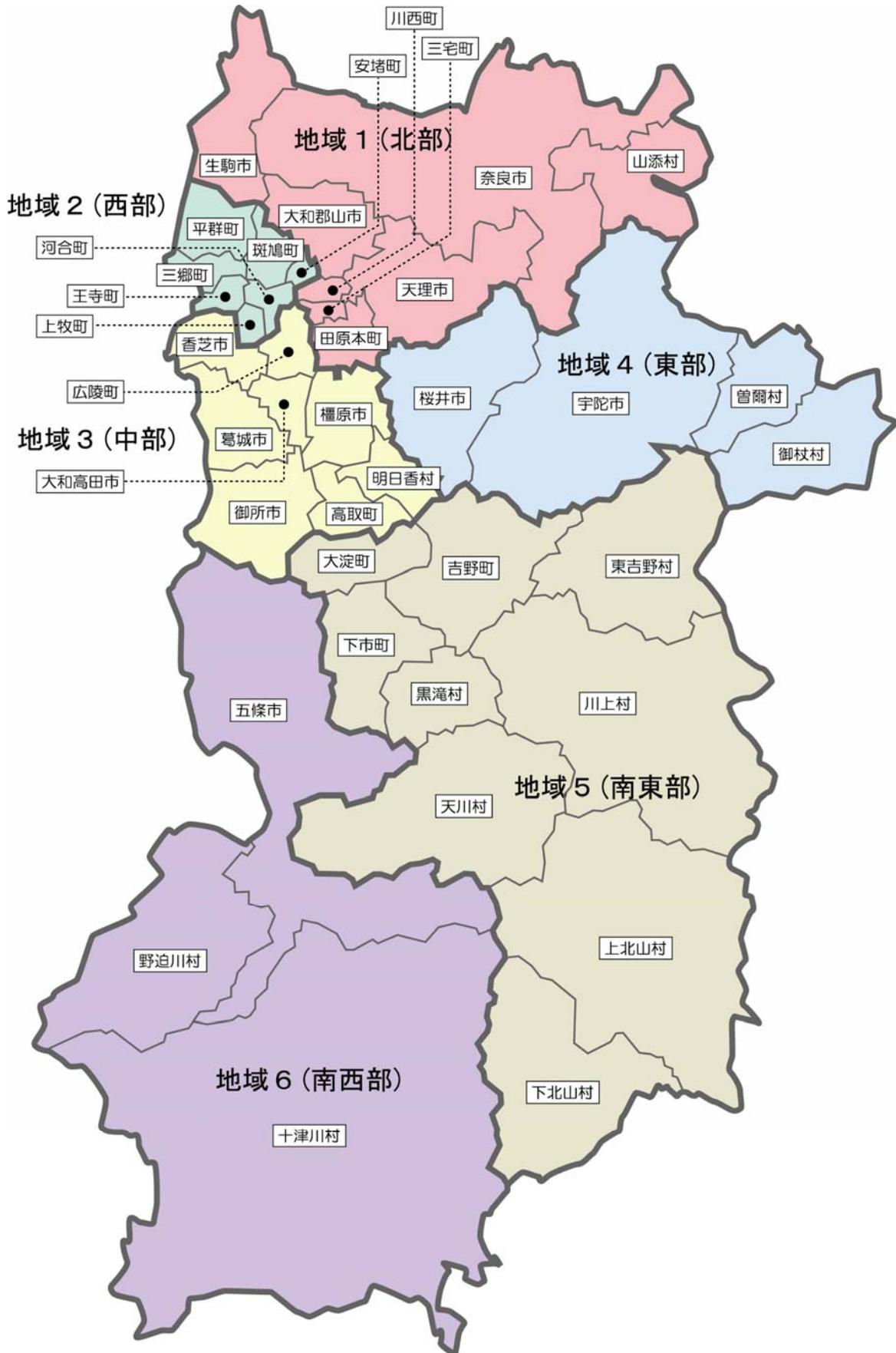
地域区分	対応する市町村	実有効回答数 及び構成比
地域1(北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,290件(48.0%)
地域2(西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	253件(9.4%)
地域3(中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	659件(24.5%)
地域4(東部)	桜井市・宇陀市・曽爾村・御杖村	215件(8.0%)
地域5(南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	190件(7.1%)
地域6(南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	78件(2.9%)
合 計		2,685件

◆ライフステージの区分と区分の設定条件及び実有効回答数

ライフステージ 区分	区分の設定条件	実有効回答数 及び構成比
若者	20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者	156件(5.8%)
夫婦	20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者	259件(9.6%)
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	215件(8.0%)
教育期前期	小・中学生、高校生の子どもがいる世帯の回答者	471件(17.5%)
教育期後期	専門学校生・短大生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	219件(8.2%)
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	82件(3.1%)
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	319件(11.9%)
対象者数		2,685件

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。区分に該当しない対象者、2人以上の子どもがいる対象者がいるため、実有効回答数の合計(1,721件)は対象者数(2,685件)と一致しない。なお、構成比は対象者数に対する比率である。

【県内地域区分図】



第2章 調査結果の概要

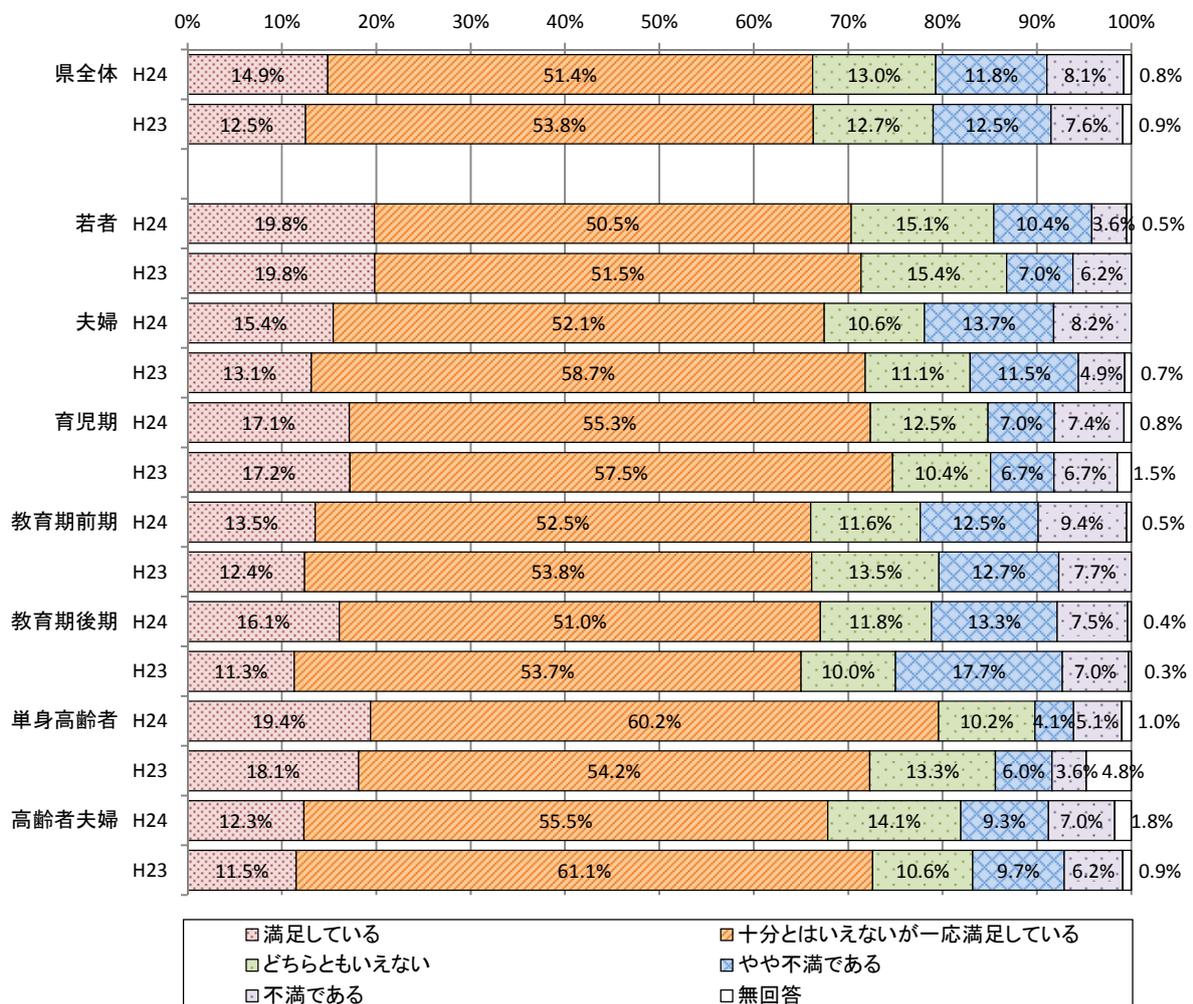
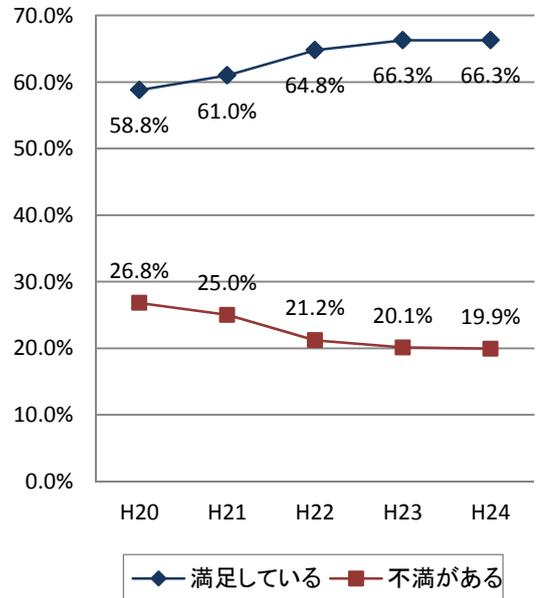
1 県民の生活全般について

1-1 現在の暮らし向きの実感

◇5年間で比較すると、「満足」（「満足している」＋「十分とはいえないが一応満足している」）している人は概ね増加し続け、「不満」（「不満である」＋「やや不満である」）を抱えている人は減少し続けています。

平成23年度と比較すると、「満足」している人が同じで、「不満」を抱えている人は0.2ポイント減少しています。

◇ライフステージ別にみると、他のライフステージに比べ、「夫婦」（21.9％）と「教育期前期」（21.9％）及び「教育期後期」（20.8％）で現在の暮らし向きに対し「不満」を抱えている人が多くなっています。

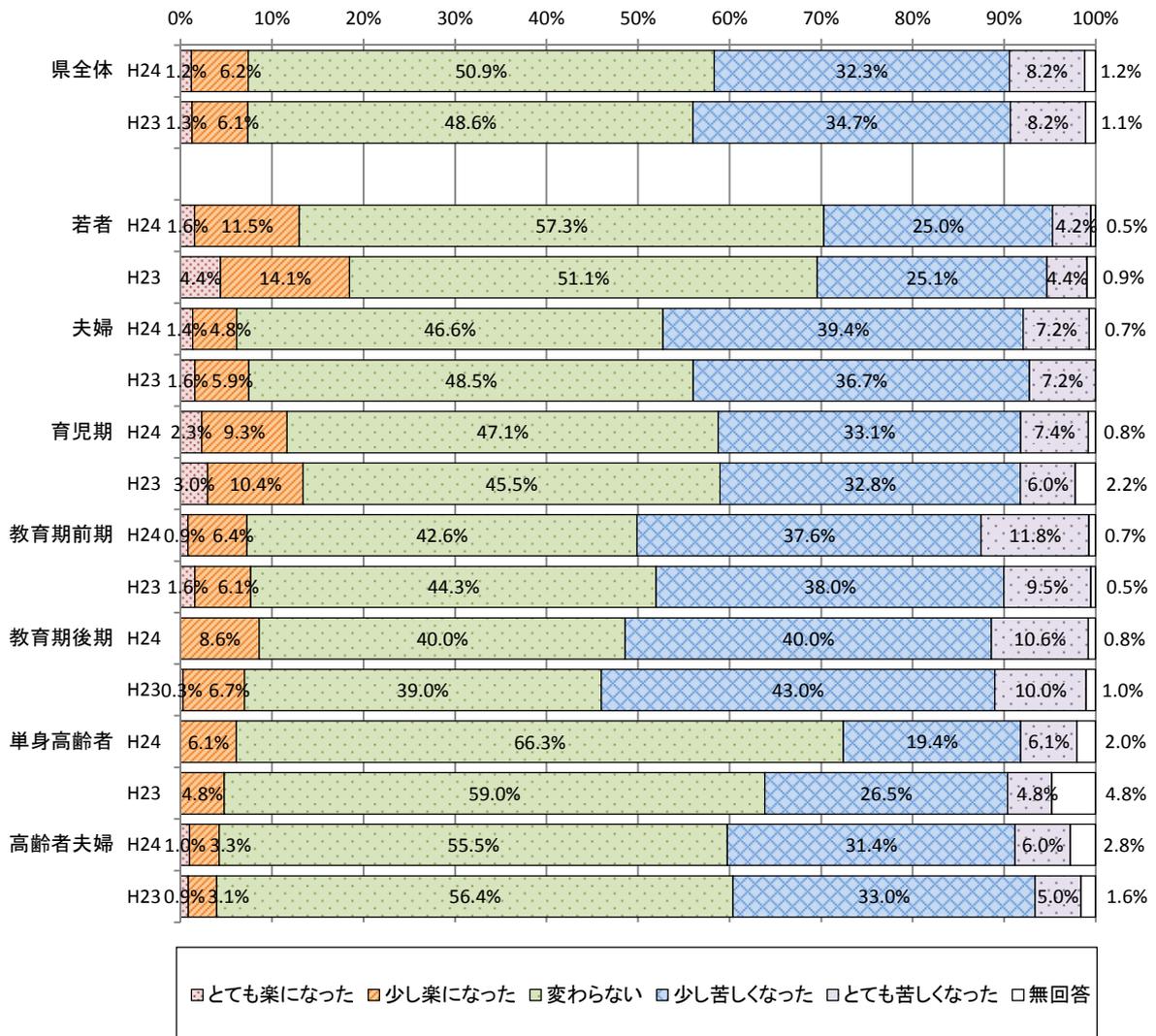
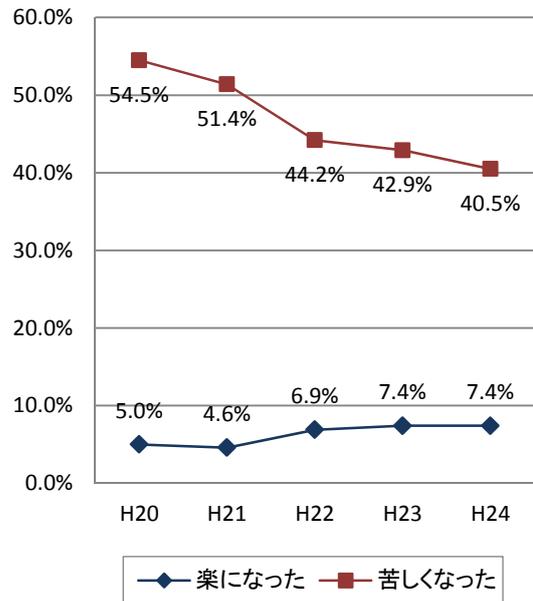


1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感

◇「楽になった」と感じている人は、平成20年度から平成21年度にかけて0.4ポイント減少しましたが、平成21年度から平成23年度にかけては増加し平成24年度は昨年と同じでした。一方で、「苦しくなった」と感じている人は減少し続けています。

◇「苦しくなった」と感じている人は、「夫婦」（46.6%）、「教育期前期」（49.4%）及び「教育期後期」（50.6%）で他のライフステージに比べて多くなっています。

平成23年度と比較すると、「若者」（0.3ポイント減）、「教育期後期」（2.4ポイント減）、「単身高齢者」（5.8ポイント減）を除く全てのライフステージで「苦しくなった」と感じている人が増加しています。



1-3 1年前と比較して暮らし向きが苦しくなった理由

◇1年前と比較して暮らし向きが「苦しくなった」と感じている人に対して、その理由をたずねたところ、「給料や収益の減少」(63.8%)が最も多く、次いで、「税金等の支払いの増加」(36.6%)、「教育にかかる費用の増加」(24.3%)が多く挙げられています。

◇ライフステージ別にみると、「給料や収益の減少」が最も多くなっています。また、「教育期前期」と「教育期後期」では「教育にかかる費用の増加」、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「税金等の支払いの増加」を理由に挙げた人が多く、ライフステージ毎に特徴が見られます。平成23年度と比較すると、「育児期」で「教育にかかる費用の増加」が29.8ポイントと増加の幅が最も大きくなっています。それ以外に、5ポイント以上増加した項目は「若者」の「結婚、病気などの特別な出費」、「夫婦」の「教育にかかる費用の増加」・「税金等の支払いの増加」、「育児期」の「給料や収益の減少」・「税金等の支払いの増加」・「預貯金の目減り」、「単身高齢者」の「給料や収益の減少」・「税金等の支払いの増加」・「働き手の減少」・「預貯金の目減り」・「毎日の生活費の増加」・「営業経費の増加」、「高齢者夫婦」の「結婚、病気などの特別な出費」となっています。

(上段：平成24年度結果、下段：前年度からの増減値)

	給料や収益の減少	税金等の支払いの増加	教育にかかる費用の増加	家や自動車の維持費の増加	家族の増加	失業、退職、病気など	貯蓄の目減り	別荘、出産、病気など	営業経費の増加	その他	
県全体	63.8% ▲ 5.2	36.6% 0.8	24.3% 1.2	24.2% ▲ 5.1	24.2% ▲ 3.3	19.1% 0.2	18.8% ▲ 3.9	17.1% 1.9	8.1% 0.5	9.3% 0.5	
ライフステージ別	若者	60.7% ▲ 7.9	37.5% 0.2	12.5% ▲ 0.9	30.4% 0.5	17.9% ▲ 10.5	14.3% ▲ 5.1	3.6% ▲ 5.4	25.0% 13.1	1.8% 0.3	10.7% 0.3
	夫婦	72.1% ▲ 4.1	43.4% 11.3	8.1% 5.8	27.2% 1.8	17.6% ▲ 5.5	24.3% ▲ 0.4	20.6% ▲ 7.0	23.5% ▲ 1.8	8.1% 2.9	6.6% ▲ 0.1
	育児期	66.3% 12.5	50.0% 21.2	52.9% 29.8	34.6% 1.9	50.0% ▲ 9.6	13.5% ▲ 5.8	10.6% 6.7	26.9% ▲ 13.5	6.7% 1.0	2.9% ▲ 4.8
	教育期前期	69.8% ▲ 8.5	35.4% 0.4	65.3% ▲ 5.8	28.1% ▲ 4.1	34.4% ▲ 2.8	8.7% 0.9	9.7% ▲ 3.1	9.0% 1.8	7.3% 1.7	3.8% ▲ 0.6
	教育期後期	75.4% ▲ 5.1	33.1% 3.5	68.5% ▲ 7.0	24.6% ▲ 4.3	26.2% ▲ 1.5	6.2% ▲ 3.9	10.0% ▲ 6.4	13.1% 3.0	6.9% ▲ 3.8	3.8% ▲ 0.6
	単身高齢者	36.0% 5.2	36.0% 24.5	4.0% 4.0	16.0% 4.5	20.0% 8.5	16.0% 12.2	32.0% 8.9	12.0% ▲ 3.4	16.0% 16.0	8.0% ▲ 18.9
	高齢者夫婦	43.0% ▲ 2.9	39.1% ▲ 5.2	0.0% 0.0	17.9% ▲ 10.8	16.6% ▲ 1.5	17.2% ▲ 0.8	27.8% ▲ 10.7	22.5% 6.9	9.9% 3.4	16.6% 1.0

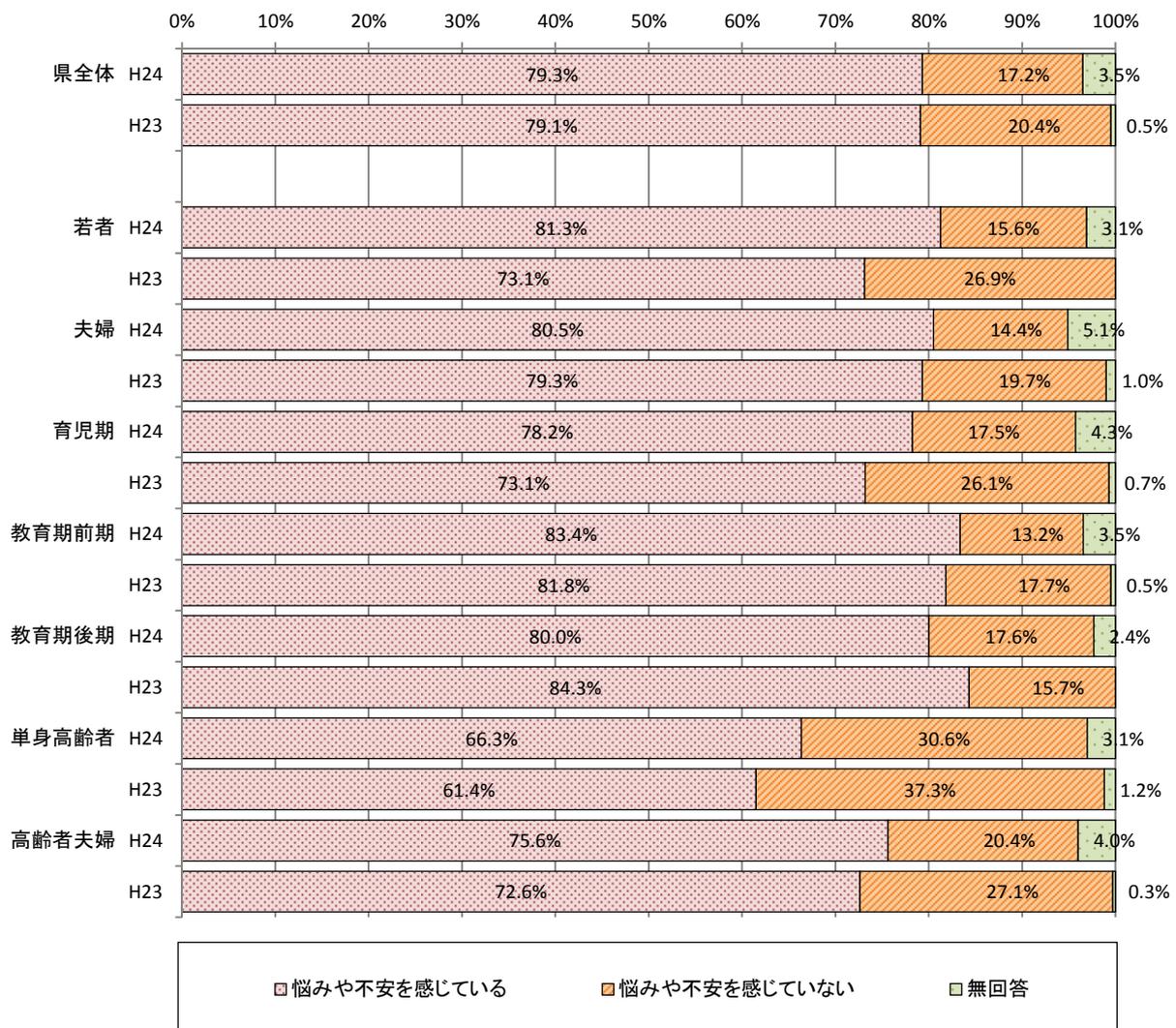
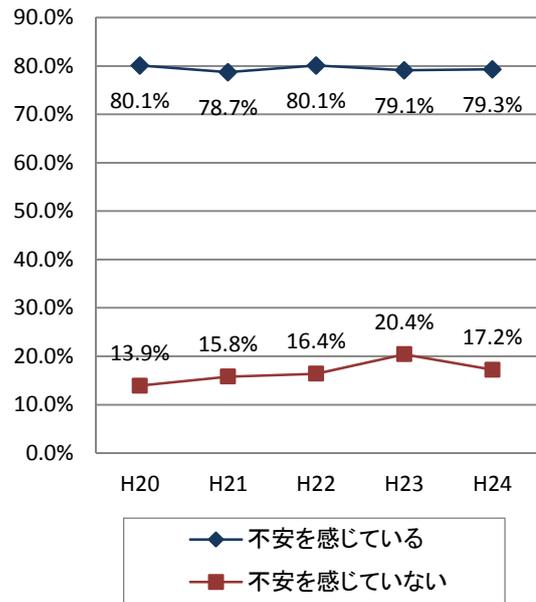
(注) 集計結果は「県全体」の平成24年度の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。太字は「その他」を除いた平成24年度の結果の各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成23年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無

◇平成20年度以降、約80%の人が日頃の生活に対して「悩みや不安を感じている」と回答しています。「悩みや不安を感じていない」人は昨年まで4年連続で増加していましたが、平成24年度は3.2ポイント減少しました。

◇「若者」(81.3%)、「夫婦」(80.5%)、「教育期前期」(83.4%)と「教育期後期」(80.0%)では、「悩みや不安を感じている」人が80%以上を占めており、他のライフステージに比べてやや多くなっています。

平成23年度と比較すると、「教育期後期」を除く全てのライフステージで「悩みや不安を感じている」人が増加しており、特に「若者」(8.2ポイント)では増加幅が大きくなっています。



1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容

◇日頃の生活で「悩みや不安を感じている」人に対して、その内容をたずねたところ、「自分の健康について」(74.9%)が最も多く、次いで「老後の生活設計について」(73.8%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(67.1%)、「家族の健康」(64.6%)と続いています。上位2項目は前回と同じ項目となっており、その他の項目についても大きな順位変動はありません。

◇ライフステージ別に見ると、「若者」では「自分の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「夫婦」では「老後の生活設計について」、「育児期」及び「教育期前期」では「今後の収入や資産の見通しについて」、「教育期後期」では「家族の生活上の問題について」、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「自分の健康について」がそれぞれ最も多くなっており、ライフステージによって悩みや不安の違いが見られます。

(上段：平成24年度結果、下段：前年度からの増減値)

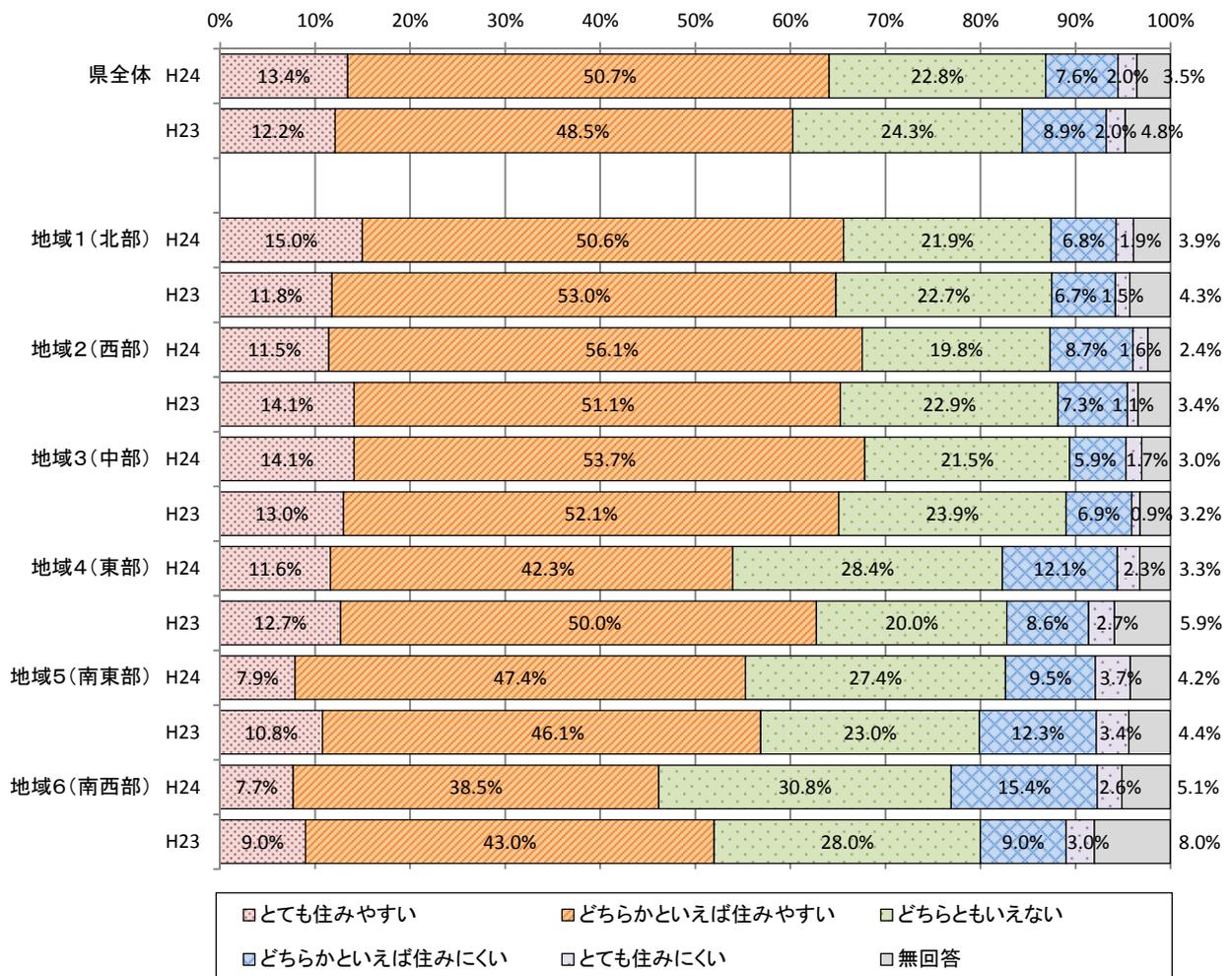
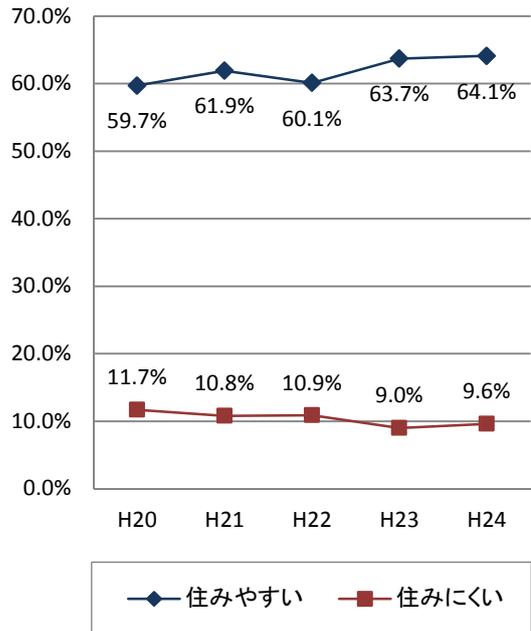
	自分の健康について	老後の生活設計について	今後の収入や資産の見通しについて	家族の健康について	現在の収入や資産について	家族の問題について(進学、就職、結婚など)	家族・親族間の人間関係について	勤務先での仕事や人間関係について	自分の生活上(進学、就職、結婚など)	事業や家業の経営上の問題について	近隣・地域との関係について	その他	無回答	
県全体	74.9% 17.9	73.8% 15.3	67.1% 12.8	64.6% 12.6	49.1% 14.0	40.0% 9.8	17.3% 5.1	16.6% 4.0	15.7% 1.0	13.1% 3.1	11.4% 2.6	4.6% 1.1	1.6% 1.6	
ライフステージ別	若者	28.2% 3.5 ▲ 7.4	16.7% ▲ 4.7 ▲ 7.4	51.3% ▲ 4.7	29.5% ▲ 1.8	38.5% ▲ 4.9	12.8% ▲ 4.6	14.1% 2.7	26.9% 3.4	66.0% 1.0	6.4% 4.0	4.5% ▲ 0.3	2.6% ▲ 0.4	0.6% 0.6
	夫婦	58.1% ▲ 6.4	69.1% ▲ 4.9	56.8% 1.0	57.2% ▲ 3.5	39.0% 1.4	16.5% ▲ 0.0	11.9% ▲ 0.1	13.6% 5.7	7.2% 2.7	11.9% 2.8	7.6% 0.6	2.5% ▲ 1.6	0.8% 0.8
	育児期	29.9% ▲ 1.8	43.3% 4.5	65.2% 0.9	38.8% ▲ 9.2	48.3% ▲ 8.9	33.3% 8.8	16.4% ▲ 8.1	15.4% ▲ 4.0	6.5% ▲ 4.8	8.5% ▲ 3.8	14.4% 3.2	3.0% ▲ 0.1	2.0% 2.0
	教育期前期	43.2% 1.6	46.8% ▲ 3.2	58.4% ▲ 9.0	41.0% ▲ 2.3	42.0% 0.1	50.9% ▲ 1.6	16.6% 3.4	17.3% 0.2	4.0% ▲ 7.0	8.9% ▲ 4.9	8.5% ▲ 2.4	2.9% 0.7	0.8% 0.8
	教育期後期	48.5% ▲ 2.4	52.9% ▲ 12.7	55.3% ▲ 11.5	41.7% ▲ 8.1	35.4% 3.0	65.0% 1.4	15.5% 6.8	16.0% 0.2	1.5% ▲ 5.3	12.6% 2.7	8.3% 0.7	2.9% 0.9	1.0% 1.0
	単身高齢者	83.3% 4.9	48.5% ▲ 10.3	27.3% 1.8	21.2% 13.4	30.3% 10.7	4.5% ▲ 1.3	15.2% 1.4	1.5% ▲ 0.4	3.0% ▲ 0.9	6.1% 4.1	10.6% ▲ 5.1	4.5% ▲ 5.3	4.5% 4.5
	高齢者夫婦	74.9% ▲ 3.2	61.4% 1.3	33.3% 2.9	64.0% ▲ 5.1	27.7% 3.3	6.9% ▲ 1.2	8.9% ▲ 1.0	0.3% ▲ 0.5	0.7% 0.2	8.9% 1.6	8.3% ▲ 4.6	4.3% ▲ 0.4	2.0% 2.0

(注) 集計結果は「県全体」の平成24年度の結果が多い項目順(「その他」・「無回答」を除く)に並べている。太字は「その他」を除いた平成24年度の結果の各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成23年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

1-6 奈良県の住みやすさの評価

◇平成20年度から平成23年度にかけて奈良県が「住みやすい」と感じている人は60%前後で推移しています。また「住みにくい」と感じている人は、平成23年度以前は10%を超えていましたが、平成23年度、平成24年度と連続して9%台に減少しています。

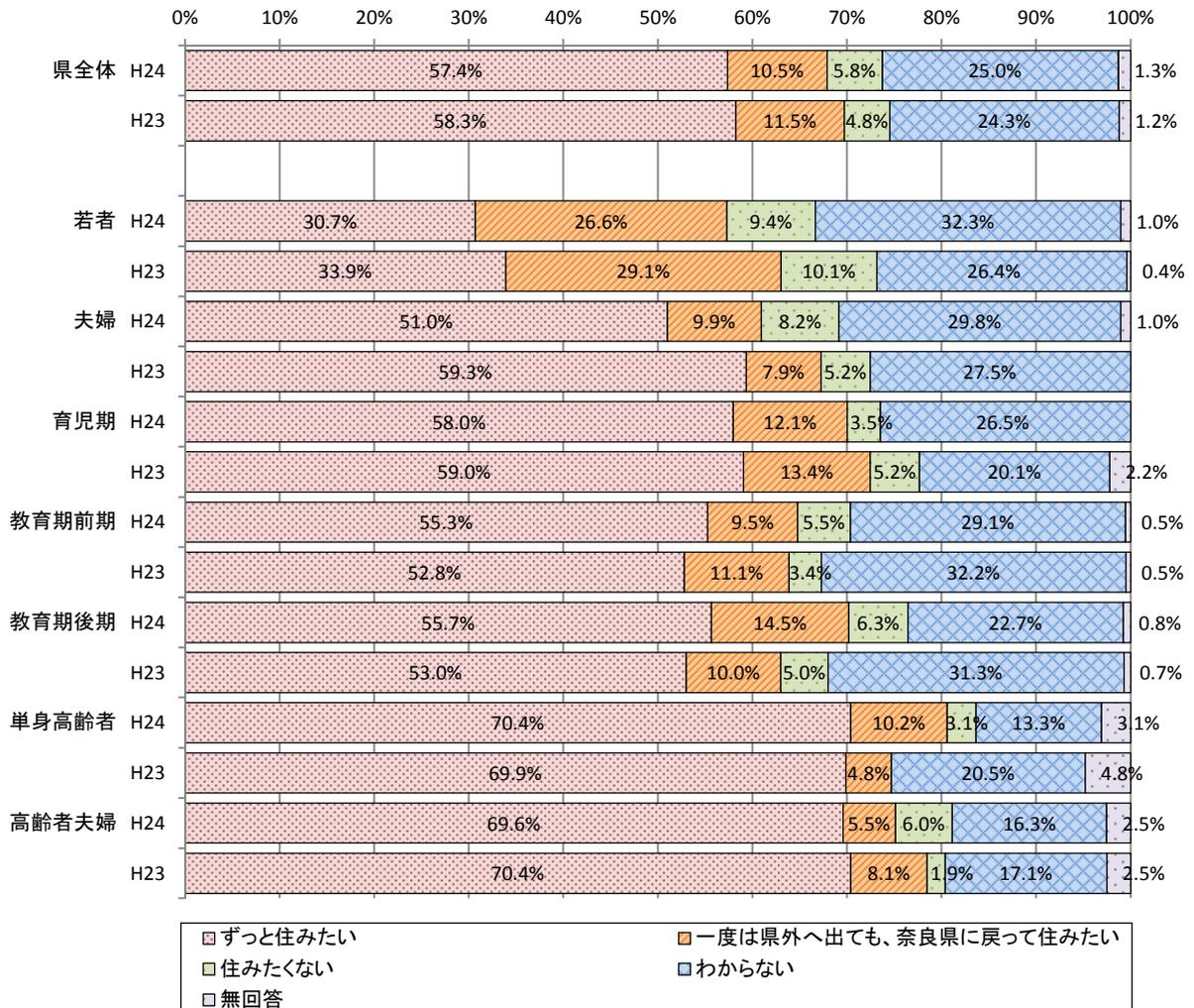
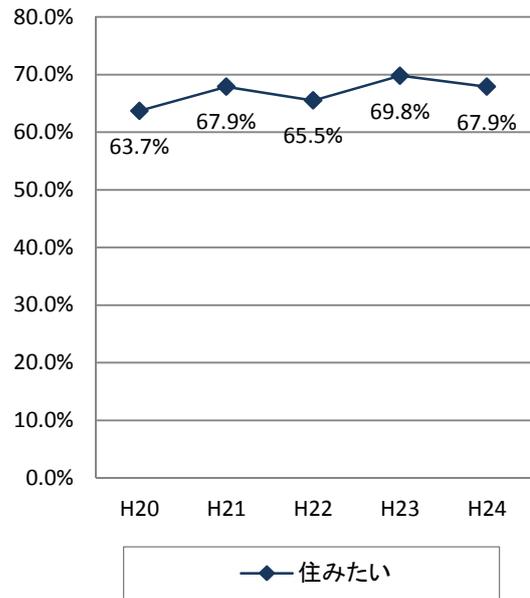
◇「地域6（南西部）」では、奈良県が「住みやすい」と感じている人が毎年増加し続けていましたが、平成24年度は減少に転じました。また、「地域1（北部）」と「地域6（南西部）」では、「住みにくい」と感じている人が毎年減少し続けていましたが、平成24年度は増加に転じています。



1-7 将来の奈良県での定住意向

◇奈良県に「住みたい」と考えている人は平成23年度まで65%前後で推移してきましたが、平成23年度には70%近くまで増加し、平成24年度も67.9%と高い値となっています。

◇「若者」では「ずっと住みたい」(30.7%)と考えている人が最も少ない一方で、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」(26.6%)と考えている人は最も多く、将来的に奈良県で「住みたい」と考えている人は57.3%となっています。
平成23年度と比較すると、「教育期前期」、「教育期後期」及び「単身高齢者」のライフステージでは「住みたい」と考えている人は増加していますが、その他のライフステージでは「住みたい」と考えている人は減少しています。



1-8 将来的に奈良県に定住したくない理由

◇将来的に奈良県に「住みたくない」人と「わからない」人に対して、その理由をたずねたところ、「医療が充実していないから」(40.0%)が最も多く、以下、「買物など日常の生活環境が整っていないから」(38.1%)、「通勤・通学に不便だから」(31.2%)と続いています。

平成23年度と比較すると、3位4位が入れ替わっているものの、その他の項目についても大きな順位変動はありません。

◇ライフステージ別にみると、「若者」では「通勤・通学に不便だから」、「教育期後期」、「単身高齢者」、「高齢者夫婦」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」、その他のライフステージでは「医療が充実していないから」が最も多くなっています。

平成23年度と比較すると、「単身高齢者」の「福祉サービスが充実していないから」の増加の幅が23.5ポイントと最も大きくなっています。

(上段：平成24年度結果、下段：前年度からの増減値)

	医療が充実していないから	買物など日常の生活環境が整っていないから	通勤・通学に不便だから	福祉サービスが充実していないから	身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから	奈良県や身近な地域に愛着を感じないから	災害を防ぐための対策が不十分だから	教育環境が充実していないから	治安を守るための対策が不十分だから	家賃など住居費が高いから	騒音・振動・大気汚染など周辺環境がよくないから	緑などの自然環境がよくないから	その他	
県全体	40.0% ▲ 7.0	38.1% ▲ 0.7	31.2% ▲ 0.6	25.8% ▲ 5.2	22.8% ▲ 1.8	20.5% ▲ 1.6	16.9% ▲ 0.9	13.5% ▲ 0.1	11.5% ▲ 0.2	8.5% ▲ 0.3	5.3% ▲ 0.6	2.6% ▲ 0.3	20.9% ▲ 3.7	
ライフステージ別	若者	25.9% ▲ 12.6	42.0% ▲ 8.2	49.4% ▲ 7.2	4.9% ▲ 11.9	17.3% ▲ 2.0	17.3% ▲ 4.0	9.9% ▲ 2.2	4.9% ▲ 13.1	9.9% ▲ 3.4	2.5% ▲ 6.0	2.5% ▲ 0.1	2.5% ▲ 0.1	22.2% ▲ 0.7
	夫婦	45.0% ▲ 1.0	41.4% ▲ 6.4	27.0% ▲ 4.0	29.7% ▲ 7.7	21.6% ▲ 4.6	19.8% ▲ 9.2	18.9% ▲ 0.1	5.4% ▲ 1.4	9.9% ▲ 0.1	9.0% ▲ 4.0	5.4% ▲ 0.6	0.0% ▲ 4.0	25.2% ▲ 11.8
	育児期	46.8% ▲ 5.6	27.3% ▲ 8.0	40.3% ▲ 5.0	18.2% ▲ 14.2	20.8% ▲ 3.1	14.3% ▲ 2.5	10.4% ▲ 4.5	33.8% ▲ 1.4	11.7% ▲ 8.7	9.1% ▲ 3.2	3.9% ▲ 1.0	3.9% ▲ 2.0	26.0% ▲ 6.4
	教育期前期	42.8% ▲ 11.3	23.4% ▲ 7.0	37.3% ▲ 7.7	23.4% ▲ 0.4	22.4% ▲ 2.1	24.4% ▲ 2.2	15.4% ▲ 5.1	26.4% ▲ 1.9	11.4% ▲ 1.9	10.9% ▲ 2.1	6.5% ▲ 2.0	2.5% ▲ 1.0	24.9% ▲ 1.2
	教育期後期	37.3% ▲ 9.5	42.7% ▲ 9.6	40.0% ▲ 4.2	20.0% ▲ 7.5	24.0% ▲ 4.7	25.3% ▲ 7.9	17.3% ▲ 1.7	26.7% ▲ 6.5	6.7% ▲ 2.1	6.7% ▲ 3.4	4.0% ▲ 2.2	2.7% ▲ 1.7	20.0% ▲ 6.6
	単身高齢者	35.3% ▲ 11.8	52.9% ▲ 11.8	5.9% ▲ 17.6	47.1% ▲ 23.5	35.3% ▲ 17.6	5.9% ▲ 11.8	17.6% ▲ 11.8	5.9% ▲ 5.9	5.9% ▲ 5.9	11.8% ▲ 0.0	5.9% ▲ 5.9	0.0% ▲ 5.9	11.8% ▲ 5.9
	高齢者夫婦	39.6% ▲ 26.0	40.7% ▲ 5.2	13.2% ▲ 6.5	28.6% ▲ 28.8	19.8% ▲ 0.1	13.2% ▲ 5.0	20.9% ▲ 16.8	4.4% ▲ 2.2	17.6% ▲ 2.1	5.5% ▲ 2.2	5.5% ▲ 2.7	3.3% ▲ 3.3	19.8% ▲ 1.5

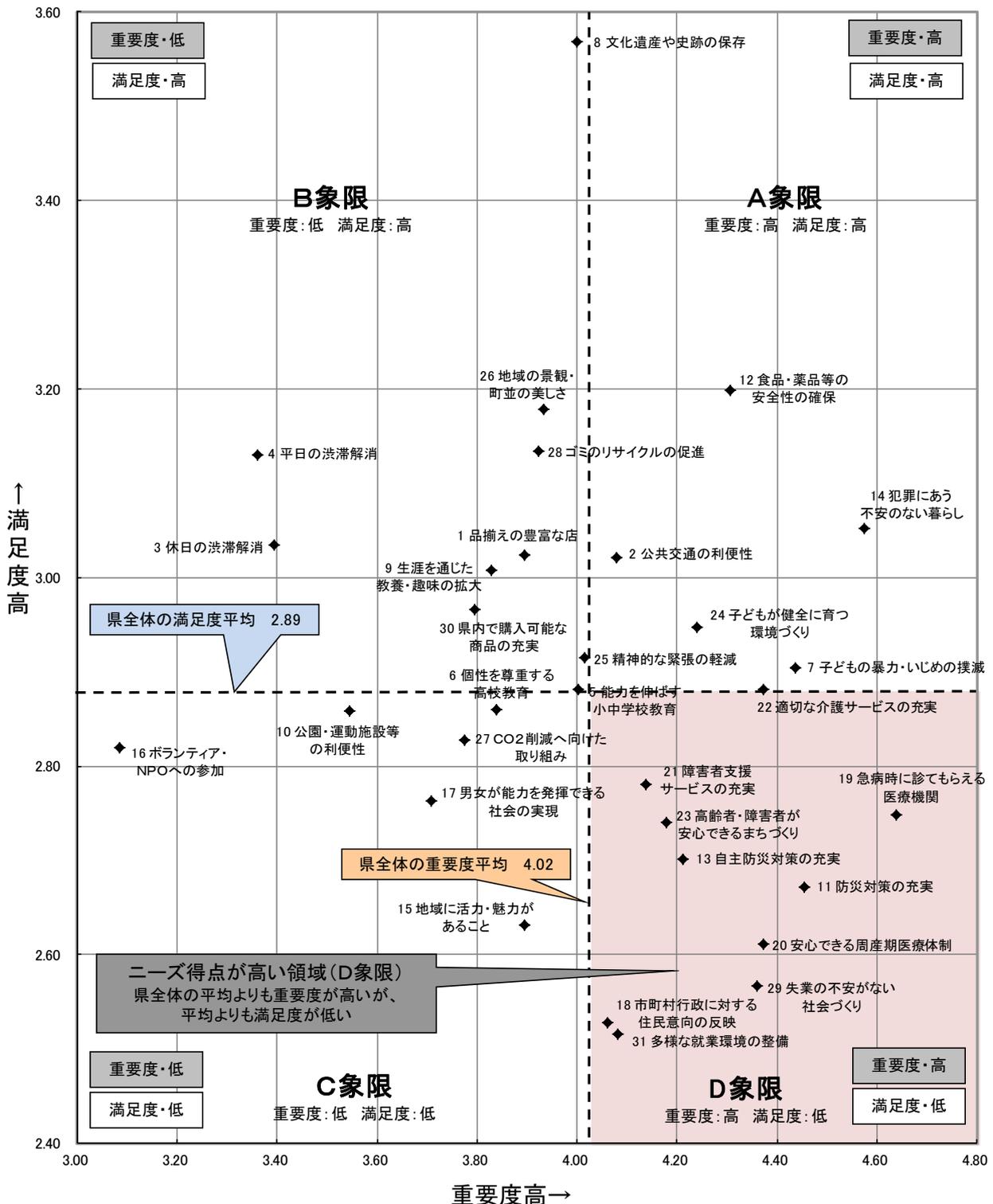
(注) 集計結果は「県全体」の平成24年度の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた平成24年度の結果の各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を、斜体は同率であることを示している。また、網かけは平成23年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

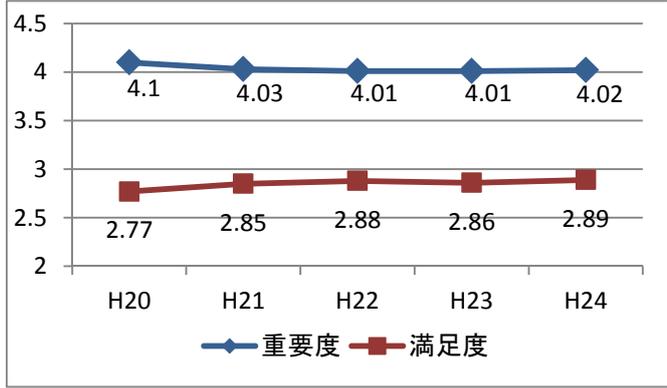
2 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について

2-1 県民の身近な生活に関する項目の重要度と満足度の関係

- ◇身近な生活に関する31項目それぞれについて、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。
- ◇「重要度が高く、満足度が低い」図の右下の領域に属する「急病時に診てもらえる医療機関」、「安心できる周産期医療体制」、「失業の不安がない社会づくり」、「自主防災対策の充実」などは、特にニーズ得点が高い項目です。



◇県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の県平均値の推移を見ると、平成22年度までの3年間は、重要度の平均値は年々低下し、満足度の平均値は年々増加してきましたが、平成22年度以降、平成24年度までは、重要度、満足度ともにほぼ一定で推移しています。



【身近な生活に関する31項目の重要度・満足度・ニーズ得点（4年間の比較）】

項目番号	項目	重要度					満足度					ニーズ得点					重要度と満足度の関係				
		H24	H23	H22	H21	H20	H24	H23	H22	H21	H20	H24	H23	H22	H21	H20	H24	H23	H22	H21	H20
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.89	3.88	3.91	3.85	3.73	3.02	2.93	3.10	3.01	3.01	11.55	11.62	11.37	11.52	11.18	B	B	B	B	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.08	4.06	4.12	4.08	4.09	3.02	2.92	3.09	3.03	2.95	12.15	12.51	12.00	12.13	12.46	A	A	A	A	B
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.39	3.34	3.34	3.35	3.35	3.03	3.00	2.94	2.95	2.87	10.10	10.25	10.22	10.22	10.48	B	B	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.36	3.35	3.34	3.33	3.38	3.13	3.08	3.09	3.08	2.95	9.63	9.83	9.72	9.72	10.32	B	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	4.00	3.96	3.97	3.97	4.22	2.88	2.89	2.89	2.88	2.83	12.48	12.27	12.34	12.38	12.37	C	B	B	B	A
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.84	3.83	3.81	3.82	3.94	2.86	2.89	2.87	2.87	2.80	12.06	11.89	11.94	11.96	12.62	C	B	C	B	B
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.44	4.43	4.41	4.45	4.60	2.90	2.94	2.90	2.89	2.64	13.73	13.56	13.69	13.85	15.43	A	A	A	A	D
8	文化遺産や史跡が大事にされること	4.00	3.98	4.01	3.99	3.97	3.57	3.55	3.51	3.49	3.40	9.73	9.73	10.00	10.02	10.31	B	B	A	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.83	3.82	3.84	3.86	3.97	3.01	3.00	2.99	2.98	2.99	11.45	11.48	11.58	11.64	11.95	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.55	3.53	3.51	3.55	3.64	2.86	2.88	2.88	2.85	2.84	11.14	11.16	10.96	11.16	11.52	C	B	B	B	B
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.46	4.46	4.36	4.39	4.55	2.67	2.65	2.79	2.76	2.52	14.83	14.93	14.02	14.22	15.81	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.31	4.30	4.33	4.34	4.46	3.20	3.25	3.25	3.18	2.76	12.06	11.82	11.90	12.24	14.43	A	A	A	A	D
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	4.21	4.23	4.13	4.14	4.31	2.70	2.65	2.76	2.72	2.52	13.89	14.17	13.40	13.59	15.00	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.57	4.53	4.51	4.56	4.65	3.05	3.03	3.03	3.02	2.62	13.49	13.34	13.39	13.60	15.74	A	A	A	A	D
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.89	3.87	3.85	3.84	3.69	2.63	2.62	2.65	2.66	2.63	13.12	13.08	12.89	12.85	12.45	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.08	3.09	3.10	3.10	3.22	2.82	2.78	2.80	2.74	2.64	9.81	9.95	9.76	9.81	10.46	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.71	3.69	3.68	3.73	4.02	2.76	2.77	2.78	2.76	2.84	12.00	11.90	11.85	12.09	12.69	C	C	C	C	B
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.06	4.08	4.07	4.13	4.18	2.53	2.45	2.52	2.45	2.39	14.10	14.48	14.16	14.66	15.08	D	D	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.64	4.61	4.61	4.66	4.66	2.75	2.67	2.70	2.68	2.62	15.08	15.34	15.22	15.47	15.77	D	D	D	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.37	4.38	4.40	4.46	4.58	2.61	2.54	2.51	2.43	2.35	14.82	15.13	15.38	15.93	16.75	D	D	D	D	D
21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.14	4.13	4.18	4.19	4.17	2.78	2.75	2.75	2.74	2.69	13.32	13.34	13.57	13.65	13.83	D	D	D	D	D
22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.37	4.35	4.39	4.43	4.35	2.88	2.84	2.82	2.78	2.73	13.63	13.74	13.95	14.26	14.24	D	D	D	D	D
23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.18	4.18	4.22	4.23	4.25	2.74	2.71	2.71	2.67	2.60	13.62	13.89	13.90	14.09	14.45	D	D	D	D	D
24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.24	4.20	4.23	4.25	4.29	2.95	2.92	2.92	2.93	2.90	12.94	12.95	13.03	13.05	13.28	A	A	A	A	A
25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.02	4.02	4.01	4.00	4.18	2.91	2.89	2.94	2.87	2.70	12.39	12.52	12.26	12.49	13.79	B	A	A	B	D
26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.93	3.95	3.94	3.96	3.98	3.18	3.13	3.16	3.14	3.25	11.09	11.35	11.18	11.34	10.94	B	B	B	B	B
27	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.77	3.82	3.80	3.93	4.15	2.83	2.80	2.85	2.83	2.75	11.97	12.29	12.18	12.81	13.93	C	C	C	C	D
28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.92	3.93	3.93	4.01	4.28	3.13	3.09	3.11	3.05	3.08	11.26	11.49	11.36	11.82	12.50	B	B	B	B	A
29	失業の不安がなく働けること	4.36	4.34	4.36	4.41	4.40	2.57	2.53	2.51	2.47	2.62	14.97	15.05	15.25	15.56	14.87	D	D	D	D	D
30	県内で買いたいものが販売されていること	3.80	3.84	3.79	3.82	3.80	2.97	2.98	2.98	2.95	2.95	11.52	11.58	11.44	11.64	11.61	B	B	B	B	B
31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.08	4.10	4.05	4.09	3.90	2.52	2.47	2.48	2.47	2.47	14.23	14.49	14.23	14.45	13.76	D	D	D	D	C

(注)「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページの「重要度と満足度の関係図」のA～Dの象限に対応している。

網かけをした項目は満足度が31項目の平均値を下回るものであり、ピンク色の網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。

2-2 地域別の重要度・満足度の比較

(1) 県全体及び地域別の重要度上位5項目の傾向

◇重要度上位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「適切な介護サービスの充実」（「地域1（北部）」、「地域4（東部）」、「地域5（南東部）」、「地域6（南西部）」の第5位）と、「失業の不安がない社会づくり」（「地域2（西部）」の第5位）となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.64	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.57	防災対策の充実 4.46	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.44	安心できる周産期 医療体制 4.37
地域1 （北部）	急病時に診て もらえる医療機関 4.64	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.60	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.46	防災対策の充実 4.46	適切な介護 サービスの充実 4.37
地域2 （西部）	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.57	防災対策の充実 4.45	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.39	失業の不安が ない社会づくり 4.29
地域3 （中部）	急病時に診て もらえる医療機関 4.64	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.57	防災対策の充実 4.44	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.43	安心できる周産期 医療体制 4.41
地域4 （東部）	急病時に診て もらえる医療機関 4.67	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.54	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.52	安心できる 周産期医療体制 4.48	適切な介護 サービスの充実 4.46
地域5 （南東部）	急病時に診て もらえる医療機関 4.59	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.50	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.34	安心できる 周産期医療体制 4.39	適切な介護 サービスの充実 4.40
地域6 （南西部）	急病時に診て もらえる医療機関 4.70	防災対策の充実 4.53	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.45	安心できる 周産期医療体制 4.43	適切な介護 サービスの充実 4.41

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位決定には小数第3位以下も考慮している。

(2) 県全体及び地域別の満足度上位5項目の傾向

◇満足度上位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「品揃えの豊富な店」（「地域1（北部）」の第5位、「地域3（中部）」の第2位）、「公共交通の利便性」（「地域2（西部）」の第5位）、「休日の渋滞解消」（「地域4（東部）」の第3位）、「地域5（南東部）」の第4位）、「地域6（南西部）」の第3位）、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「地域6（南西部）」の第2位）となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や史跡の保存 3.57	食品・薬品等の安全性の確保 3.20	地域の景観・町並みの美しさ 3.18	ゴミのリサイクルの促進 3.13	平日の渋滞解消 3.13
地域1（北部）	文化遺産や史跡の保存 3.67	食品・薬品等の安全性の確保 3.23	公共交通の利便性 3.23	地域の景観・町並みの美しさ 3.23	品揃えの豊富な店 3.12
地域2（西部）	文化遺産や史跡の保存 3.48	地域の景観・町並みの美しさ 3.25	食品・薬品等の安全性の確保 3.23	ゴミのリサイクルの促進 3.14	公共交通の利便性 3.13
地域3（中部）	文化遺産や史跡の保存 3.50	品揃えの豊富な店 3.28	食品・薬品等の安全性の確保 3.26	平日の渋滞解消 3.16	ゴミのリサイクルの促進 3.12
地域4（東部）	文化遺産や史跡の保存 3.41	平日の渋滞解消 3.30	休日の渋滞解消 3.18	地域の景観・町並みの美しさ 3.15	ゴミのリサイクルの促進 3.06
地域5（南東部）	文化遺産や史跡の保存 3.44	ゴミのリサイクルの促進 3.38	平日の渋滞解消 3.30	休日の渋滞解消 3.20	地域の景観・町並みの美しさ 3.14
地域6（南西部）	文化遺産や史跡の保存 3.46	犯罪にあう不安のない暮らし 3.35	休日の渋滞解消 3.20	平日の渋滞解消 3.19	地域の景観・町並みの美しさ 3.18

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

(3) 県全体及び地域別の満足度下位5項目の傾向

◇満足度下位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「自主防災対策の充実」（「地域1（北部）」の第27位）、「防災対策の充実」（「地域3（中部）」の第28位）、「地域6（南西部）」の第27位）、「急病時に診てもらえる医療機関」（「地域4（東部）」の第28位、「地域6（南西部）」の第29位）、「公共交通の利便性」（「地域5（南東部）」の第29位、「地域6（南西部）」の第31位）、「品揃えの豊富な店」（「地域5（南東部）」・「地域6（南西部）」の第28位）となっています。

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	多様な就業環境の整備 2.52	市町村行政に対する住民意向の反映 2.53	失業の不安がない社会づくり 2.57	安心できる周産期医療体制 2.61	地域に活力・魅力があること 2.63
地域1（北部）	多様な就業環境の整備 2.55	市町村行政に対する住民意向の反映 2.55	失業の不安がない社会づくり 2.61	安心できる周産期医療体制 2.72	自主防災対策の充実 2.73
地域2（西部）	多様な就業環境の整備 2.54	市町村行政に対する住民意向の反映 2.63	安心できる周産期医療体制 2.66	失業の不安がない社会づくり 2.71	地域に活力・魅力があること 2.72
地域3（中部）	市町村行政に対する住民意向の反映 2.52	失業の不安がない社会づくり 2.54	多様な就業環境の整備 2.55	防災対策の充実 2.62	地域に活力・魅力があること 2.68
地域4（東部）	地域に活力・魅力があること 2.17	市町村行政に対する住民意向の反映 2.32	多様な就業環境の整備 2.38	急病時に診てもらえる医療機関 2.43	失業の不安がない社会づくり 2.45
地域5（南東部）	安心できる周産期医療体制 1.86	地域に活力・魅力があること 2.09	公共交通の利便性 2.11	品揃えの豊富な店 2.20	多様な就業環境の整備 2.28
地域6（南西部）	公共交通の利便性 1.76	安心できる周産期医療体制 1.83	急病時に診てもらえる医療機関 2.27	品揃えの豊富な店 2.29	防災対策の充実 2.38

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

2-3 ライフステージ別の重要度・満足度の比較

(1) 県全体及びライフステージ別の重要度上位5項目の傾向

◇重要度上位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「失業の不安がない社会づくり」（「若者」の第4位、「教育期前期」・「教育期後期」の第5位）、「適切な介護サービスの充実」（「夫婦」の第5位、「単身高齢者」・「高齢者夫婦」の第3位）となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診てもらえる医療機関	犯罪にあう不安のない暮らし	防災対策の充実	子どもの暴力・いじめの撲滅	安心できる周産期医療体制
	4.64	4.57	4.46	4.44	4.37
若者	急病時に診てもらえる医療機関	犯罪にあう不安のない暮らし	防災対策の充実	失業の不安がない社会づくり	安心できる周産期医療体制
	4.74	4.70	4.60	4.58	4.56
夫婦	急病時に診てもらえる医療機関	犯罪にあう不安のない暮らし	防災対策の充実	安心できる周産期医療体制	適切な介護サービスの充実
	4.63	4.61	4.42	4.39	4.38
育児期	急病時に診てもらえる医療機関	子どもの暴力・いじめの撲滅	犯罪にあう不安のない暮らし	安心できる周産期医療体制	防災対策の充実
	4.83	4.82	4.76	4.66	4.58
教育期前期	急病時に診てもらえる医療機関	子どもの暴力・いじめの撲滅	犯罪にあう不安のない暮らし	防災対策の充実	失業の不安がない社会づくり
	4.66	4.63	4.59	4.47	4.37
教育期後期	急病時に診てもらえる医療機関	犯罪にあう不安のない暮らし	防災対策の充実	子どもの暴力・いじめの撲滅	失業の不安がない社会づくり
	4.64	4.58	4.44	4.44	4.42
単身高齢者	犯罪にあう不安のない暮らし	急病時に診てもらえる医療機関	適切な介護サービスの充実	安心できる周産期医療体制	子どもの暴力・いじめの撲滅
	4.48	4.47	4.37	4.25	4.24
高齢者夫婦	急病時に診てもらえる医療機関	犯罪にあう不安のない暮らし	適切な介護サービスの充実	防災対策の充実	子どもの暴力・いじめの撲滅
	4.54	4.48	4.39	4.38	4.37

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
 点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

(2) 県全体及びライフステージ別の満足度上位5項目の傾向

◇満足度上位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「休日の渋滞解消」（「若者」の第5位）、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「夫婦」・「教育期後期」の第5位）、「品揃えの豊富な店」（「育児期」の第5位、「教育期前期」の第3位）、「生涯を通じた教養・趣味の拡大」（「単身高齢者」の第4位）、「公共交通の利便性」（「単身高齢者」の第5位）となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や史跡の保存	食品・薬品等の安全性の確保	地域の景観・町並みの美しさ	ゴミのリサイクルの促進	平日の渋滞解消
	3.57	3.20	3.18	3.13	3.13
若者	文化遺産や史跡の保存	地域の景観・町並みの美しさ	食品・薬品等の安全性の確保	平日の渋滞解消	休日の渋滞解消
	3.50	3.29	3.28	3.14	3.03
夫婦	文化遺産や史跡の保存	地域の景観・町並みの美しさ	食品・薬品等の安全性の確保	平日の渋滞解消	犯罪にあう不安のない暮らし
	3.48	3.12	3.11	3.11	3.10
育児期	文化遺産や史跡の保存	地域の景観・町並みの美しさ	食品・薬品等の安全性の確保	平日の渋滞解消	品揃えの豊富な店
	3.60	3.21	3.20	3.06	3.02
教育期前期	文化遺産や史跡の保存	食品・薬品等の安全性の確保	品揃えの豊富な店	地域の景観・町並みの美しさ	平日の渋滞解消
	3.59	3.21	3.15	3.14	3.10
教育期後期	文化遺産や史跡の保存	食品・薬品等の安全性の確保	平日の渋滞解消	地域の景観・町並みの美しさ	犯罪にあう不安のない暮らし
	3.52	3.29	3.16	3.13	3.09
単身高齢者	文化遺産や史跡の保存	ゴミのリサイクルの促進	地域の景観・町並みの美しさ	生涯を通じた教養・趣味の拡大	公共交通の利便性
	3.61	3.41	3.39	3.27	3.25
高齢者夫婦	文化遺産や史跡の保存	ゴミのリサイクルの促進	食品・薬品等の安全性の確保	平日の渋滞解消	地域の景観・町並みの美しさ
	3.70	3.43	3.29	3.27	3.24

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
 点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

(3) 県全体及びライフステージ別の満足度下位5項目の傾向

◇満足度下位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「急病時に診てもらえる医療機関」（「夫婦」・「育児期」の第28位、「教育期前期」の第27位）、「防災対策の充実」（「育児期」、「高齢者夫婦」の第27位）、「自主防災対策の充実」（「教育期後期」の第27位）、「男女が能力を發揮できる社会の実現」（「単身高齢者」の第30位）となっています。

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	多様な就業環境の整備	市町村行政に対する住民意向の反映	失業の不安がない社会づくり	安心できる周産期医療体制	地域に活力・魅力があること
	2.52	2.53	2.57	2.61	2.63
若者	市町村行政に対する住民意向の反映	失業の不安がない社会づくり	多様な就業環境の整備	地域に活力・魅力があること	安心できる周産期医療体制
	2.52	2.53	2.53	2.61	2.64
夫婦	市町村行政に対する住民意向の反映	多様な就業環境の整備	安心できる周産期医療体制	急病時に診てもらえる医療機関	失業の不安がない社会づくり
	2.41	2.52	2.54	2.62	2.63
育児期	市町村行政に対する住民意向の反映	多様な就業環境の整備	失業の不安がない社会づくり	急病時に診てもらえる医療機関	防災対策の充実
	2.44	2.46	2.60	2.63	2.64
教育期前期	市町村行政に対する住民意向の反映	多様な就業環境の整備	安心できる周産期医療体制	失業の不安がない社会づくり	急病時に診てもらえる医療機関
	2.49	2.51	2.59	2.60	2.63
教育期後期	市町村行政に対する住民意向の反映	安心できる周産期医療体制	多様な就業環境の整備	地域に活力・魅力があること	自主防災対策の充実
	2.52	2.57	2.59	2.62	2.66
単身高齢者	地域に活力・魅力があること	男女が能力を發揮できる社会の実現	失業の不安がない社会づくり	多様な就業環境の整備	市町村行政に対する住民意向の反映
	2.63	2.66	2.67	2.67	2.70
高齢者夫婦	多様な就業環境の整備	失業の不安がない社会づくり	地域に活力・魅力があること	市町村行政に対する住民意向の反映	防災対策の充実
	2.62	2.63	2.65	2.66	2.70

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
 点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

3 県民の仕事に関する意識やニーズについて

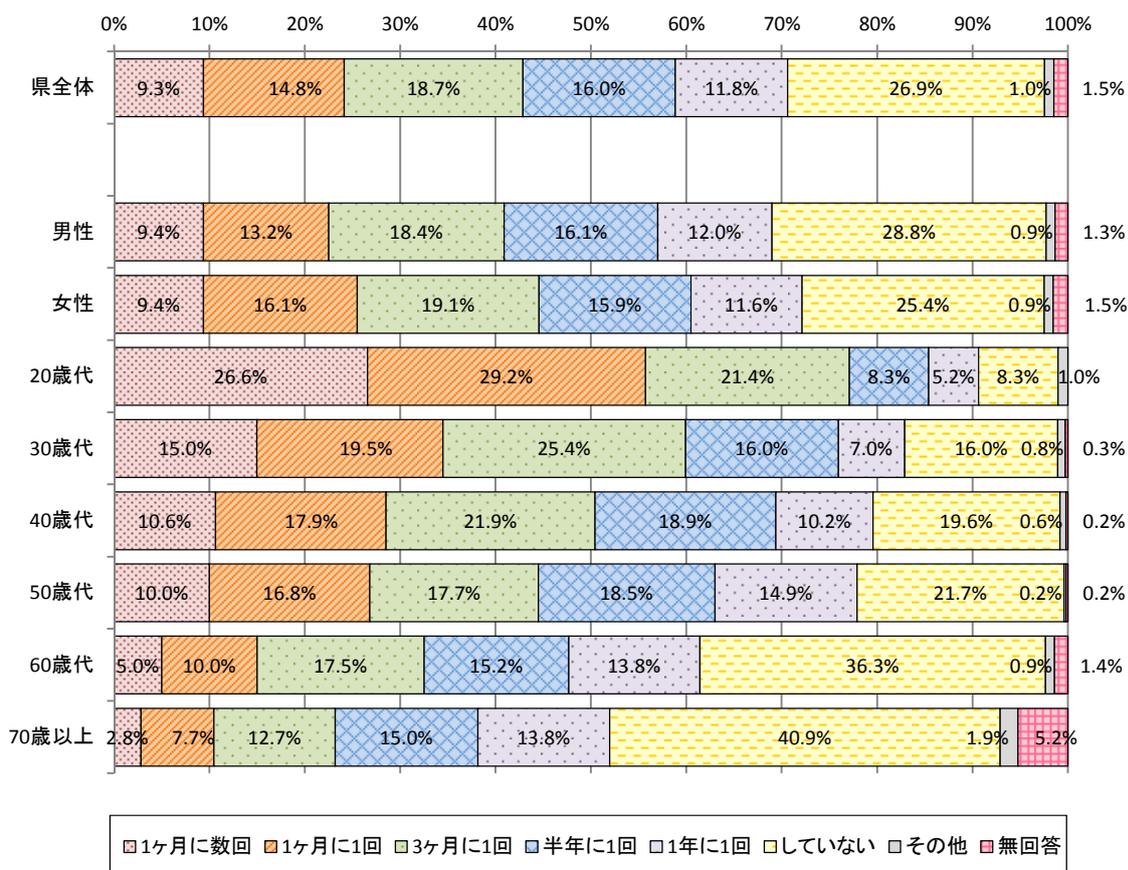
3-1 買い物やサービスの利用について

(1) この1年間の県外での買い物（日用品を除く）回数

◇この1年間で、県外での日用品以外の品物の買い物やサービスの利用については、「していない」(26.9%)が最も多く、次いで「3ヶ月に1回」(18.7%)、「半年に1回」(16.0%)となっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「していない」(28.8%)が最も多く、次いで「3ヶ月に1回」(18.4%)、「半年に1回」(16.1%)が多くなっています。「女性」については、「していない」(25.4%)が最も多く、次いで「3ヶ月に1回」(19.1%)、「1ヶ月に1回」(16.1%)が多くなっています。

◇年齢別に見ると、「50歳代」「60歳代」「70歳以上」では「していない」が、「30歳代」「40歳代」では「3ヶ月に1回」が、「20歳代」では「1ヶ月に1回」最も多く、若い年代ほど県外での買い物の回数が多くなっています。



(2) この1年間での通信販売の利用頻度

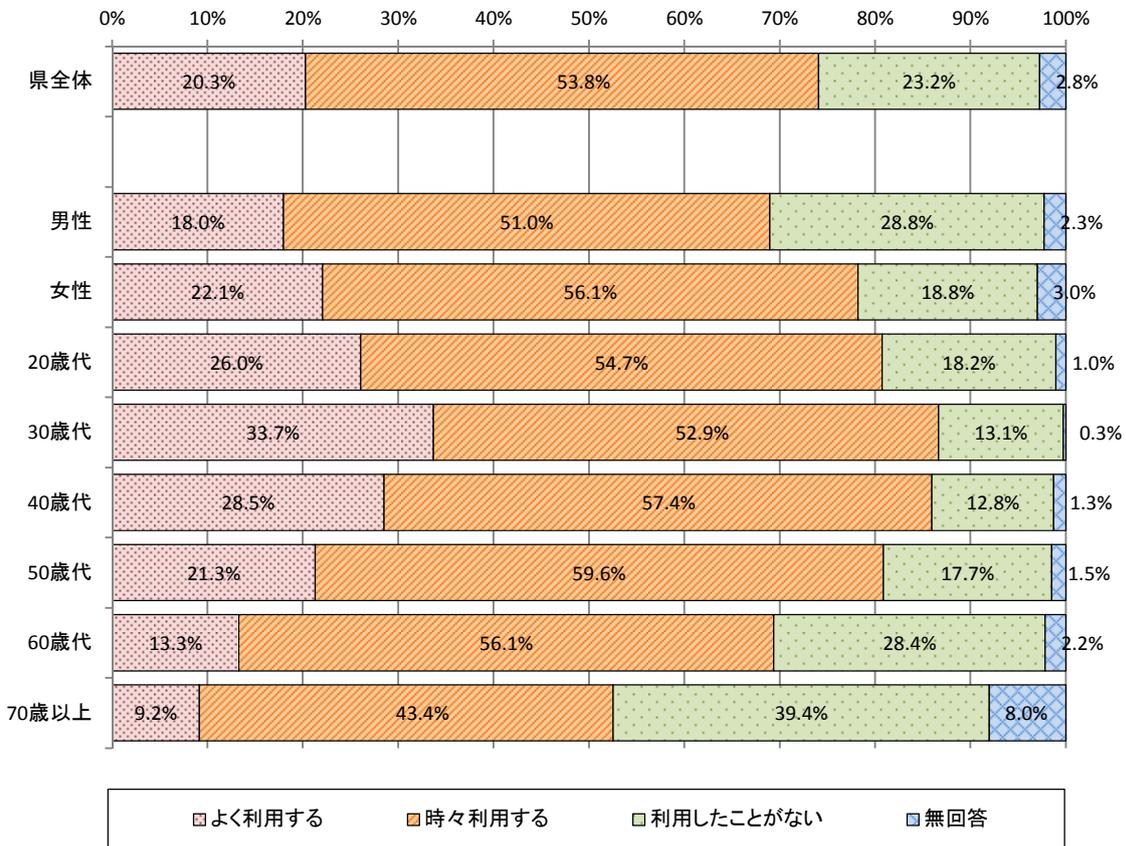
◇この1年間での通信販売の利用頻度については、「時々利用する」(53.8%)が最も多く、次いで「利用したことがない」(23.2%)となっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「時々利用する」(51.0%)が最も多く、次いで「利用したことがない」(28.8%)となっています。

「女性」については、「時々利用する」(56.1%)が最も多く、次いで「よく利用する」(22.1%)となっています。

◇年齢別に見ると、全ての年齢層で、「時々利用する」が最も多くなっています。

次いで「20歳代」から「50歳代」までは「よく利用する」が多く、「60歳代」「70歳以上」は「利用したことがない」が多くなっています。



3-2 奈良県の農畜産物・林産物の振興について

■ この1年間での県内農産物直売所の利用経験

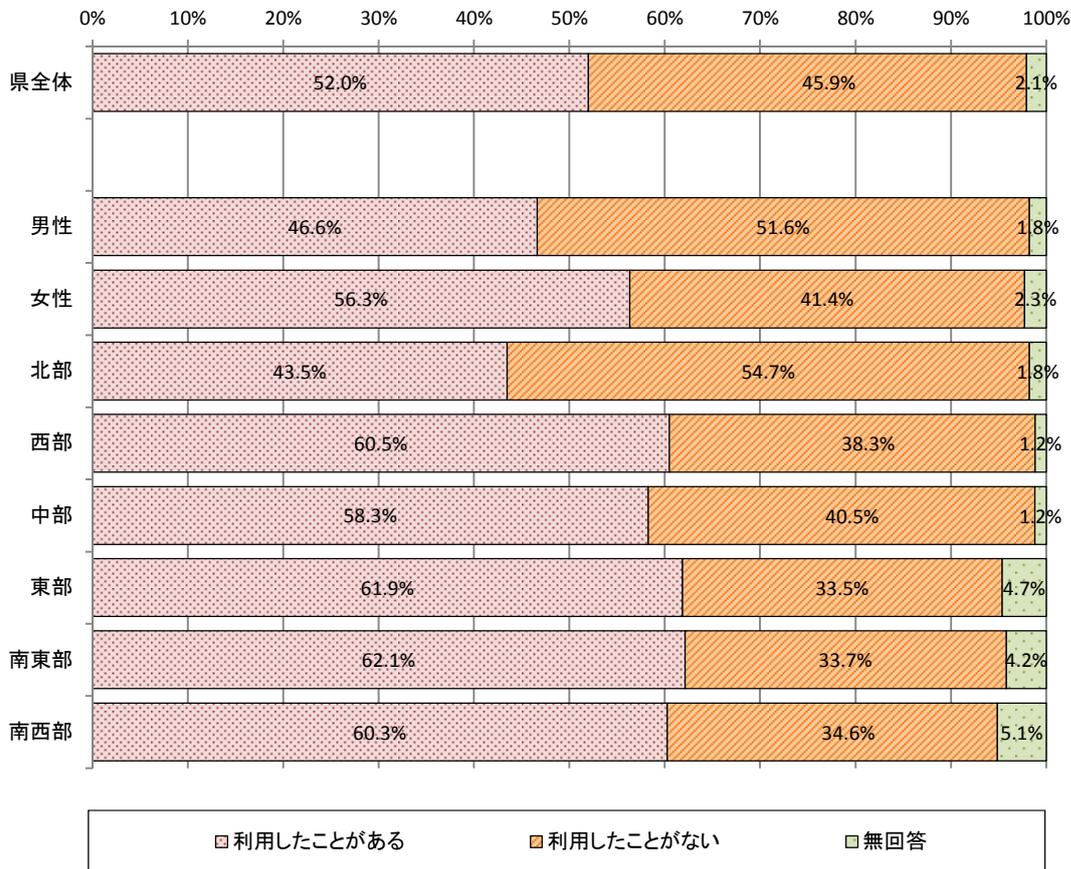
◇この1年間での県内農産物直売所の利用経験については、「利用したことがある」(52.0%)が、「利用したことがない」(45.9%)に比べやや多くなっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「利用したことがない」(51.6%)が、「利用したことがある」(46.6%)に比べやや多くなっています。

「女性」については、「利用したことがある」(56.3%)が、「利用したことがない」(41.4%)に比べやや多くなっています。

◇地域別に見ると、「北部」については、「利用したことがない」(54.7%)が、「利用したことがある」(43.5%)に比べやや多くなっています。

「西部」、「中部」、「東部」、「南東部」、「南西部」については、「利用したことがある」(約60%)が、「利用したことがない」(30~40%)に比べ多くなっています。



3-3 観光の振興について

■ 奈良県が観光地として発展することについてどう思うか

◇奈良県が観光地として発展することについてどう思うかについては、「良い」(68.0%)が最も多く、次いで「どちらかといえば良い」(23.0%)、「どちらともいえない」(4.8%)となっており、「良い」「どちらかといえば良い」を合わせると90%以上となっています。

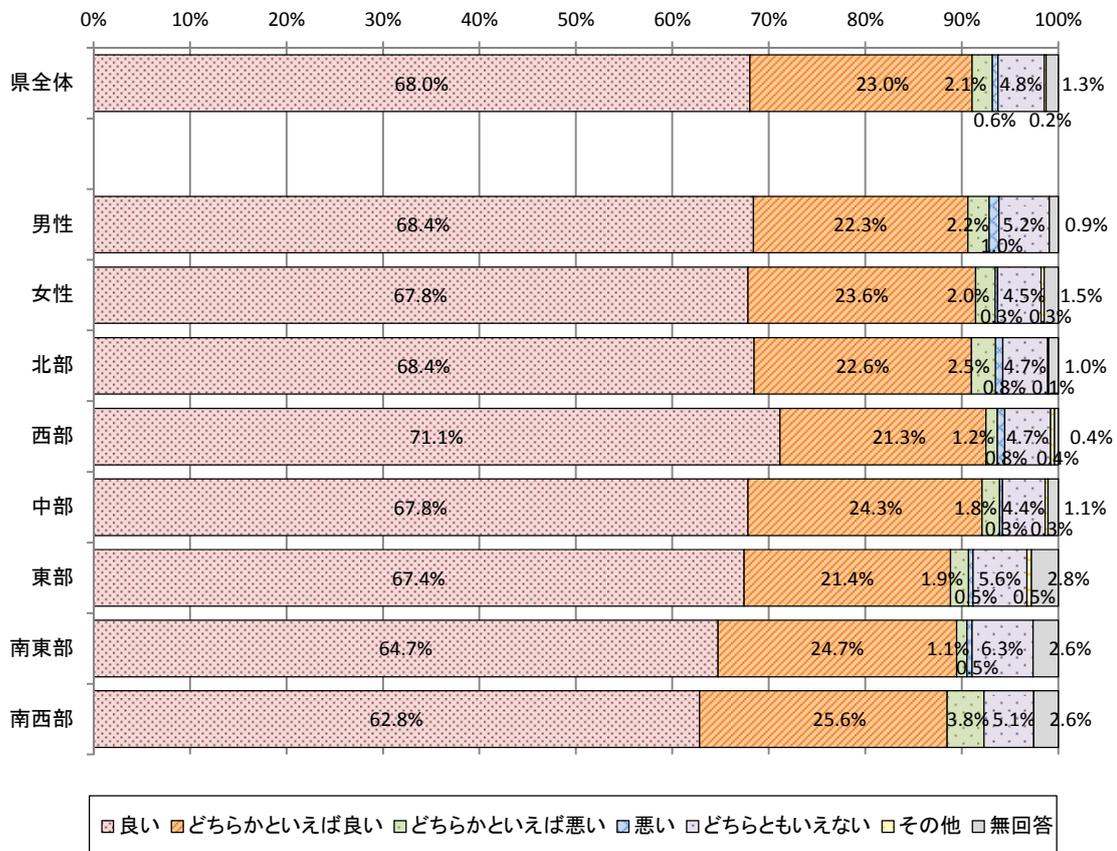
◇性別に見ると、「男性」については、「良い」(68.4%)が最も多く、次いで「どちらかといえば良い」(22.3%)、「どちらともいえない」(5.2%)となっています。

「女性」については、「良い」(67.8%)が最も多く、次いで「どちらかといえば良い」(23.6%)、「どちらともいえない」(4.5%)となっています。

「男性」「女性」ともに、「良い」「どちらかといえば良い」を合わせると90%以上となっています。

◇地域別に見ると、全ての地域について、「良い」が最も多く、次いで「どちらかといえば良い」、「どちらともいえない」となっています。

「北部」「西部」「中部」については、「良い」「どちらかといえば良い」を合わせると90%以上となっていますが、「東部」「南東部」「南西部」については、「良い」「どちらかといえば良い」を合わせると90%弱になっており、「北部」「西部」「中部」の方がより良いと思う傾向が強くなっています。



3-4 健康づくりの推進について

(1) 現在の健康状態について

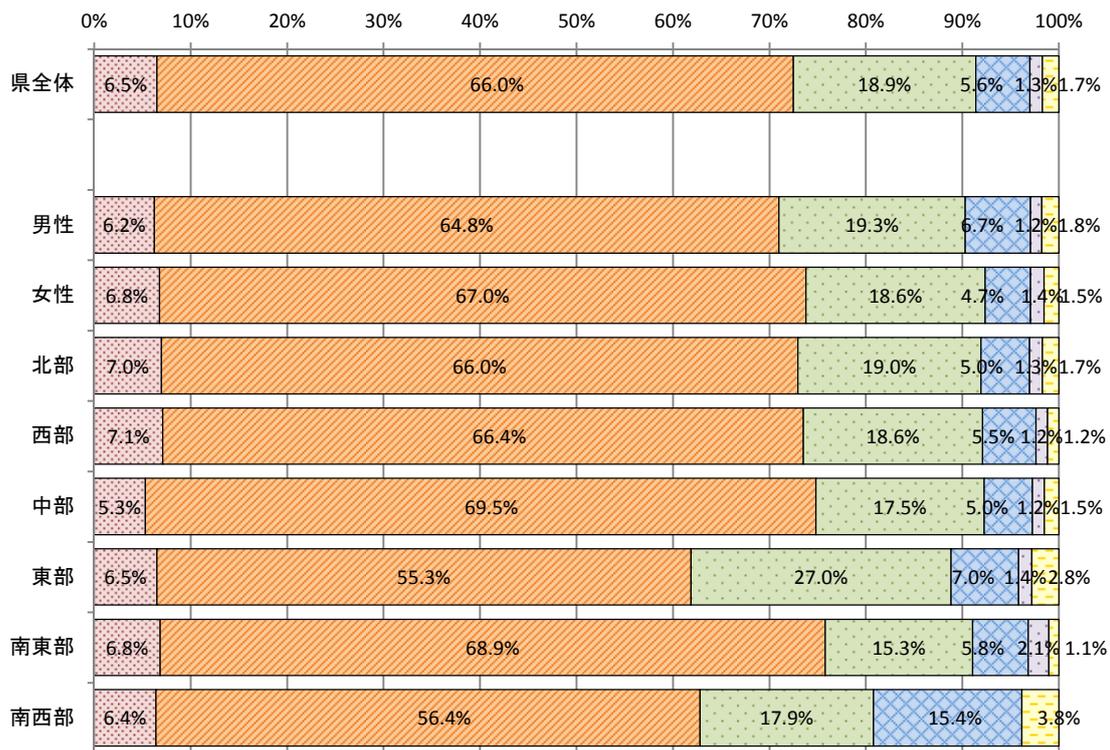
◇現在の健康状態については、「健康なほうだと思う」(66.0%)が最も多く、次いで「あまり健康でない」(18.9%)、「非常に健康だと思う」(6.5%)となっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「健康なほうだと思う」(64.8%)が最も多く、次いで「あまり健康でない」(19.3%)、「健康でない」(6.7%)となっています。

「女性」については、「健康なほうだと思う」(67.0%)が最も多く、次いで「あまり健康でない」(18.6%)、「非常に健康だと思う」(6.8%)となっています。

◇地域別に見ると、「北部」「西部」「中部」「南東部」については、「健康なほうだと思う」が最も多く、次いで「あまり健康でない」、「非常に健康だと思う」となっています。

「東部」「南西部」については、「健康なほうだと思う」が最も多く、次いで「あまり健康でない」、「健康でない」となっています。



非常に健康だと思う
 健康なほうだと思う
 あまり健康ではない
 健康でない
 わからない
 無回答

(2) 健康のために1年以上30分以上の運動を週1、2回しているか

◇健康のために1年以上30分以上の運動を週1、2回しているかについては、「していない」(57.4%)が最も多く、次いで「週2日以上行っている」(25.0%)、「週1日以上は行っている」(16.3%)となっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「していない」(54.0%)が最も多く、次いで「週2日以上行っている」(27.3%)、「週1日以上は行っている」(17.8%)となっています。

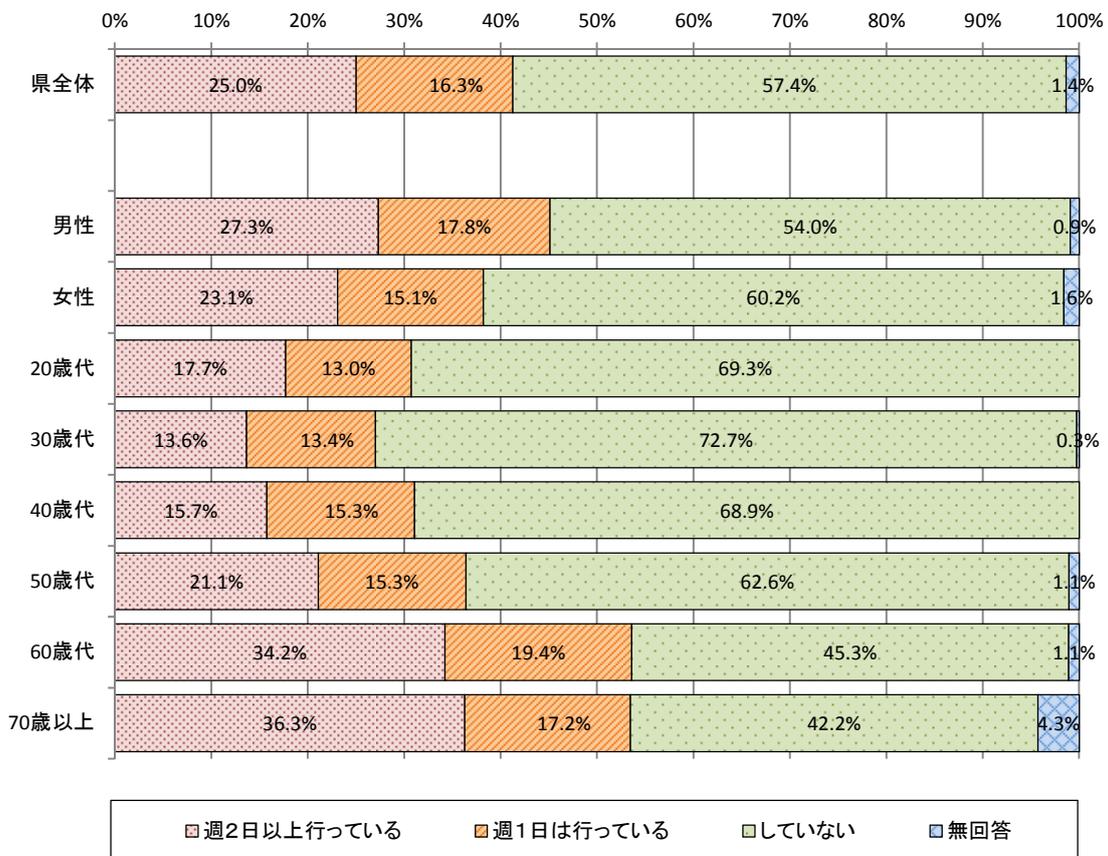
「女性」については、「していない」(60.2%)が最も多く、次いで「週2日以上行っている」(23.1%)、「週1日以上は行っている」(15.1%)となっています。

◇年齢別に見ると、「20歳代」「30歳代」「40歳代」については、「していない」が約70%であり、「週2日以上行っている」「週1日以上は行っている」を合わせても約30%となっています。

「50歳代」については、「していない」(62.6%)であり、「週2日以上行っている」「週1日以上は行っている」を合わせると36.4%となっています。

「60歳代」「70歳以上」については、「していない」が約45%であり、「週2日以上行っている」「週1日以上は行っている」を合わせても50%以上となっています。

年齢層が高くなるほど、健康のために運動している回数が多い傾向にあり、特に60歳以上になるとその傾向がより高くなっています。



3-5 子育て支援の充実と児童虐待の防止について

(1) 子育てと仕事の両立に必要なこと

◇子育てと仕事の両立に必要なことについては、「保育所の数や定員を増やすことによる、待機児童の解消」(51.4%)が最も多く、次いで「保育所の延長保育や休日保育の充実」(38.1%)、「子どもが病気の時や病後の保育の充実」(32.3%)となっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「保育所の数や定員を増やすことによる、待機児童の解消」(54.7%)が最も多く、次いで「保育所の延長保育や休日保育の充実」(42.3%)、「育児休業制度の充実や休みの取りやすい環境」(30.9%)となっています。

「女性」については、「保育所の数や定員を増やすことによる、待機児童の解消」(48.7%)が最も多く、次いで「子どもが病気の時や病後の保育の充実」(37.2%)、「保育所の延長保育や休日保育の充実」(34.7%)となっています。

◇年齢別に見ると、全ての年齢層について、「保育所の数や定員を増やすことによる、待機児童の解消」が最も多くなっています。

2番目に多い項目については、「20歳代」では「育児休業制度の充実や休みの取りやすい環境」、「30歳代」では「子どもが病気の時や病後の保育の充実」、「40歳代」「50歳代」「60歳代」「70歳以上」では「保育所の延長保育や休日保育の充実」となっています。

	対象者数	に保育所の数や定員を増やすことによる、待機児童の解消	保育所の延長保育や休日保育の充実	子どもが病気の時や病後の保育の充実	(放課後児童クラブ等)の充実	女性継続支援の再就職支援や	配偶者の子育て参加促進	育児休業制度の充実や	柔軟な働き方や在宅就労など	その他	無回答	
県全体	2,685 100.0%	1,379 51.4%	1,024 38.1%	866 32.3%	503 18.7%	726 27.0%	346 12.9%	855 31.8%	724 27.0%	76 2.8%	232 8.6%	
性別	男性	1,186 100.0%	649 54.7%	502 42.3%	309 26.1%	221 18.6%	297 25.0%	126 10.6%	367 30.9%	263 22.2%	39 3.3%	112 9.4%
	女性	1,495 100.0%	728 48.7%	519 34.7%	556 37.2%	281 18.8%	429 28.7%	219 14.6%	487 32.6%	461 30.8%	37 2.5%	119 8.0%
年齢別	20歳代	192 100.0%	112 58.3%	68 35.4%	50 26.0%	14 7.3%	73 38.0%	36 18.8%	88 45.8%	64 33.3%	5 2.6%	1 0.5%
	30歳代	374 100.0%	172 46.0%	133 35.6%	152 40.6%	81 21.7%	107 28.6%	48 12.8%	135 36.1%	145 38.8%	14 3.7%	13 3.5%
	40歳代	470 100.0%	209 44.5%	184 39.1%	183 38.9%	90 19.1%	129 27.4%	70 14.9%	146 31.1%	166 35.3%	14 3.0%	15 3.2%
	50歳代	470 100.0%	253 53.8%	214 45.5%	167 35.5%	87 18.5%	137 29.1%	60 12.8%	150 31.9%	117 24.9%	13 2.8%	17 3.6%
	60歳代	640 100.0%	376 58.8%	257 40.2%	194 30.3%	138 21.6%	178 27.8%	73 11.4%	209 32.7%	138 21.6%	16 2.5%	54 8.4%
	70歳以上	535 100.0%	257 48.0%	166 31.0%	120 22.4%	92 17.2%	101 18.9%	58 10.8%	124 23.2%	94 17.6%	14 2.6%	131 24.5%

(注) 太字は「その他」及び「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、赤色の掛けを付した数値は最多項目を、青色の網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

(2)「オレンジリボン」という運動を知っているか

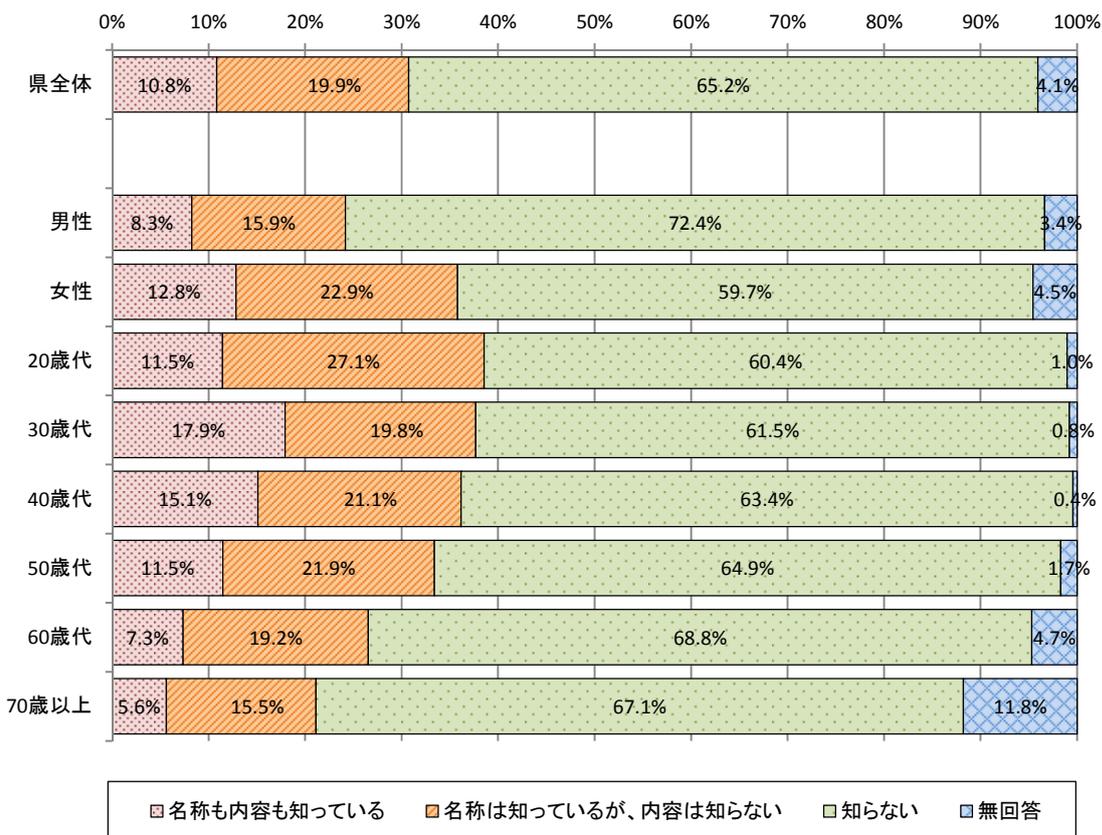
◇「オレンジリボン」という運動を知っているかについては、「知らない」(65.2%)が最も多く、次いで「名称は知っているが、内容は知らない」(19.9%)、「名称も内容も知っている」(10.8%)となっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「知らない」(72.4%)が最も多く、次いで「名称は知っているが、内容は知らない」(15.9%)、「名称も内容も知っている」(8.3%)となっています。

「女性」については、「知らない」(59.7%)が最も多く、次いで「名称は知っているが、内容は知らない」(22.9%)、「名称も内容も知っている」(12.8%)となっています。

◇年齢別に見ると、全ての年齢層について、「知らない」が最も多く、次いで「名称は知っているが、内容は知らない」、「名称も内容も知っている」となっています。

「名称も内容も知っている」と「名称は知っているが、内容は知らない」を合わせると、「20歳代」では38.6%、「30歳代」では37.7%、「40歳代」では36.2%、「50歳代」では33.4%、「60歳代」では26.5%、「70歳以上」では21.1%となっており、年齢層が若いほど、知っている割合が高い傾向にあります。



3-6 上質な文化芸術に触れる機会の創出について

■ この1年間に芸術活動や芸術鑑賞をしたことがあるか

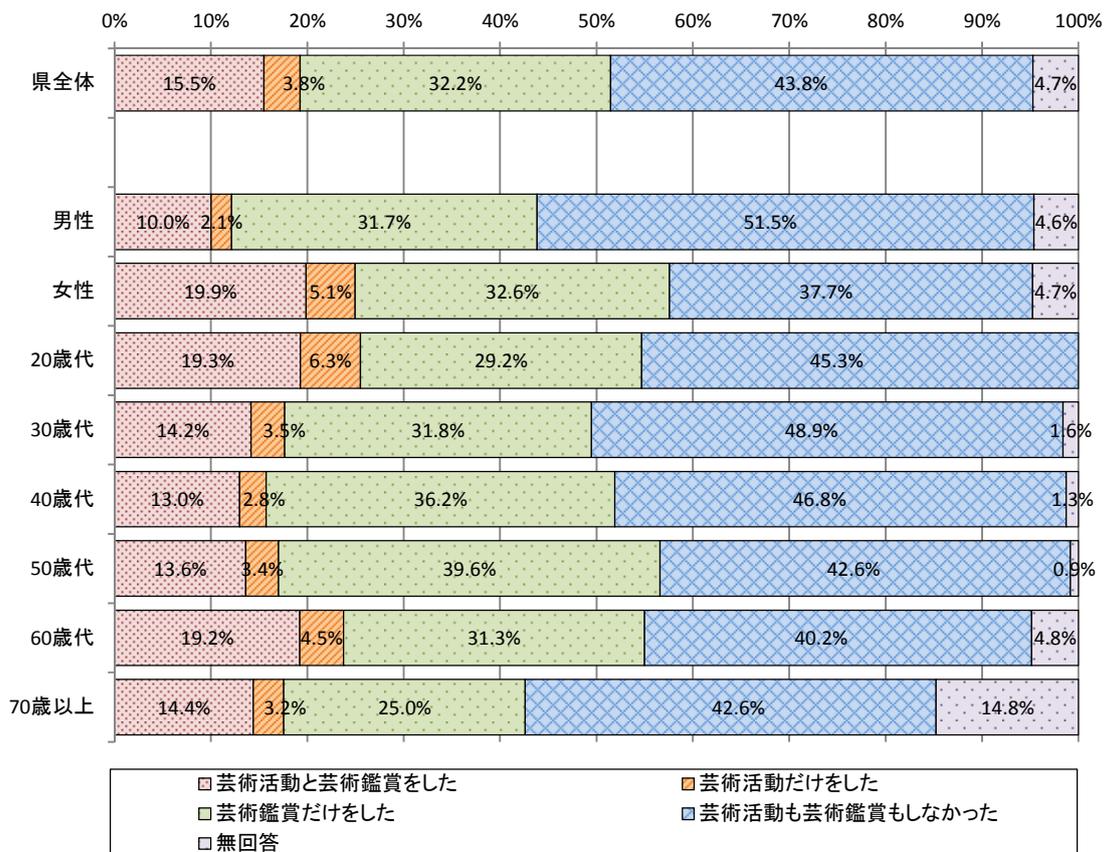
◇この1年間に芸術活動や芸術鑑賞をしたことがあるかについては、「芸術活動も芸術鑑賞もしなかった」(43.8%)が最も多く、次いで「芸術鑑賞だけをした」(32.2%)、「芸術活動と芸術鑑賞をした」(15.5%)となっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「芸術活動も芸術鑑賞もしなかった」(51.5%)が最も多く、次いで「芸術鑑賞だけをした」(31.7%)、「芸術活動と芸術鑑賞をした」(10.0%)となっています。

「女性」については、「芸術活動も芸術鑑賞もしなかった」(37.7%)が最も多く、次いで「芸術鑑賞だけをした」(32.6%)、「芸術活動と芸術鑑賞をした」(19.9%)となっています。

◇年齢別に見ると、全ての年齢層について、「芸術活動も芸術鑑賞もしなかった」が最も多く、次いで「芸術鑑賞だけをした」、「芸術活動と芸術鑑賞をした」となっています。

「20歳代」と「70歳代」については、「芸術活動と芸術鑑賞をした」が約20%となっており、他の年齢層に比べやや高い傾向にあります。



3-7 県政情報の入手方法について

■ 県政に関する情報の入手方法

◇県政に関する情報の入手方法については、「県民だより奈良（県広報誌）」（84.4%）が最も多く、次いで「新聞」（45.5%）、「市町村の広報誌」（42.2%）となっています。

◇性別に見ると、「男性」については、「県民だより奈良（県広報誌）」（82.7%）が最も多く、次いで「新聞」（48.6%）、「市町村の広報誌」（42.6%）となっています。

「女性」については、「県民だより奈良（県広報誌）」（86.0%）が最も多く、次いで「新聞」（43.1%）、「市町村の広報誌」（42.0%）となっています。

◇年齢別に見ると、「20歳代」「50歳代」「60歳代」「70歳以上」については、「県民だより奈良（県広報誌）」が最も多く、次いで「新聞」、「市町村の広報誌」となっています。

「30歳代」「40歳代」については、「県民だより奈良（県広報誌）」が最も多く、次いで「市町村の広報誌」、「新聞」となっています。

全ての年齢層について、「県民だより奈良（県広報誌）」が最も多く、年齢層が高いほどその割合は高い傾向にあります。

	対象者数	（県民だより奈良 （県広報誌）	テレビの 広報番組	ラジオの 広報番組	新聞	奈良県 ホームページ	大型 ディスプレイ	市町村の 広報誌	その他	無回答	
県全体	2,684 100.0%	2,266 84.4%	923 34.4%	41 1.5%	1,222 45.5%	221 8.2%	46 1.7%	1,133 42.2%	36 1.3%	61 2.3%	
性別	男性	1,186 100.0%	981 82.7%	387 32.6%	13 1.1%	576 48.6%	129 10.9%	17 1.4%	505 42.6%	17 1.4%	29 2.4%
	女性	1,495 100.0%	1,285 86.0%	536 35.9%	28 1.9%	645 43.1%	92 6.2%	29 1.9%	628 42.0%	19 1.3%	29 1.9%
年齢別	20歳代	192 100.0%	127 66.1%	50 26.0%	3 1.6%	59 30.7%	13 6.8%	9 4.7%	54 28.1%	2 1.0%	6 3.1%
	30歳代	374 100.0%	295 78.9%	98 26.2%	1 0.3%	116 31.0%	35 9.4%	9 2.4%	123 32.9%	12 3.2%	7 1.9%
	40歳代	470 100.0%	403 85.7%	133 28.3%	4 0.9%	164 34.9%	51 10.9%	8 1.7%	179 38.1%	9 1.9%	6 1.3%
	50歳代	470 100.0%	417 88.7%	153 32.6%	4 0.9%	224 47.7%	52 11.1%	8 1.7%	210 44.7%	2 0.4%	5 1.1%
	60歳代	640 100.0%	571 89.2%	267 41.7%	13 2.0%	350 54.7%	47 7.3%	7 1.1%	298 46.6%	5 0.8%	12 1.9%
	70歳以上	535 100.0%	452 84.5%	222 41.5%	16 3.0%	308 57.6%	23 4.3%	5 0.9%	268 50.1%	6 1.1%	22 4.1%

（注）太字は「その他」及び「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、赤色の掛けを付した数値は最多項目を、青色の網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

平成24年度
県民アンケート調査
報告書（概要版）

平成24年11月

奈良県総務部知事公室統計課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 0742-27-8439
